

平成25年度 独立行政法人 福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業 報告書

平成26年3月

特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会

1 事業概要

盲ろう者（視覚聴覚二重障害者）は全国に2万3千人ほど存在すると推計されており（厚生労働省、平成18年）、人口比率から換算すると東京都にも2千人以上存在すると考えられる。しかし、盲ろう者に対して、移動やコミュニケーションの支援を提供する「通訳・介助者派遣事業」に登録している者は百名程度（都内）に留まっている。このような状況から適切な支援が受けられないために、社会的に孤立している盲ろう者は少なくないと考えられる。本事業は、視覚障害・聴覚障害それぞれの支援に関わる団体が連携し、盲ろう者に情報を届け、また、問題解決を支援していくことで、社会的な孤立を解消することを目的として実施した。

2 実施体制・事業実施過程

以下の4団体と連携して事業を実施した。

- ・社会福祉法人 日本盲人会連合
- ・社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター
- ・特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse
- ・国立大学法人 東京大学先端科学技術研究センター福島研究室

相談会は、連携4団体に加え、以下の2団体の協力により実施した。

- ・公益社団法人 東京聴覚障害者総合支援機構 東京都聴覚障害者連盟
- ・一般社団法人 ゆうわ きこえとことばの相談センター

啓発イベントは、連携4団体に加え、以下の6団体・企業の協力により実施した。

- ・一般社団法人 ゆうわ きこえとことばの相談センター
- ・社会福祉法人 桜雲会
- ・株式会社 自立コム
- ・ダブル・ピー株式会社
- ・ブルームヒアリング 株式会社
- ・メドエルジャパン 株式会社

事業の実施については、実行委員会を計6回開催し、連携団体と審議を重ねた結果、効果的に事業を進めることができた。

3 事業内容・成果

(1) 相談会の開催

視覚障害者で聴力低下を感じている方を対象とした「視覚障害者のための聞こえの相談会」、聴覚障害者で視力低下を感じている方を対象とした「聴覚障害者のための見えにくさの相談会」をそれぞれ3回ずつ開催し、27名の相談を受けた。

「視覚障害者のための聞こえの相談会」を実施したことで、「納得できた」、「自分だけじゃないと分かり落ち込みがなくなった」、「年のせいではなかった」と

いった反応が得られた。加齢による中等度難聴で聞こえにくさを実感し、心理的に不安を感じている人が多く、そうした人へ直接情報を届けることができた。また、視覚障害者やその関係者が3日間で約5,500名来場するサイトワールドにおいて、初めて「聞こえの相談会」を開催することができた。

聴覚障害者で視力低下を感じている方を対象に、「見えにくさの相談会」を実施したことで、「聴覚障害に加え、見えにくさがあることへの不安」、「人から理解されにくいことへのもどかしさ」等について問題の軽減をはかることができ、予定通りの成果が出せたと言える。また、聴覚障害者やその関係者が2日間で約3,500名来場する耳の日記念文化祭において、初めて「見えにくさの相談会」を開催することができた。

※付録 1-1、付録 1-2：相談会アンケート参照

(2) 広報ツールの作成・公開・配布

「視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら」(付録2-1)、「聴覚障害者の方へ見えにくくなったと感じたら」(付録2-2)という2種の広報ツール(パンフレット)と、「『見えにくさ』とともに生きる～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～」(付録2-3)という広報ツール(DVD)を作成した。

パンフレット2種は、視聴覚に障害のある当事者、家族、支援者等を対象に作成し、全国の視覚障害・聴覚障害関係団体、教育関係団体、都内の市区町村、社会福祉協議会、総合病院眼科・耳鼻咽喉科などへ送付、啓発イベントで来場者へ配布、Webで公開したことで、広く一般に啓発することができた。「視覚障害・聴覚障害者にとって役立つ」、「絵や写真が多く、内容が分かりやすい」といった意見が多かった。

DVDは、視聴覚に障害のある当事者、家族、支援者等を対象に作成し、全国の聴覚障害・視覚障害関係団体、教育関係団体、都内の市区町村などへ送付、啓発イベントで紹介、Webで公開したことで、広く一般に啓発することができた。「アッシャー症候群や見えにくさについて理解を深めることができた」といった意見が多かった。

①「視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら」

- ・印刷 墨字版 1万部、
点字版・デージー版 各100部
- ・送付先 市区町村や視覚障害者情報提供施設等538か所
- ・配布先 啓発イベントにおいて371人に配布



②「聴覚障害者の方へ見えにくくなったと感じたら」

- ・印刷 墨字版 1万5千部
- ・送付先 市区町村や視覚障害者情報提供施設等771か所
- ・配布先 啓発イベントにおいて371人に配布
情報アクセシビリティ・フォーラムにおいて500人に配布



③DVD『見えにくさ』とともに生きる ～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～

- ・プレス 1千部
- ・送付先 市区町村や聴覚障害者情報提供施設等771か所



※付録 2-1:「視覚障害者の方へ聞こえにくくなったと感じたら」

※付録 2-2:「聴覚障害者の方へ見えにくくなったと感じたら」

※付録 2-3:『見えにくさ』とともに生きる ～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～

※付録 1-3、付録 1-4、付録 1-5: 広報ツールアンケート参照

(3) 啓発イベントの開催

視聴覚に障害のある当事者や家族、支援者等を対象に、視覚障害、聴覚障害それぞれの補償や支援の方法についての理解を深めていくこと、また一般市民を対象に視覚聴覚二重障害について啓発することを目的に、『見えやすさ』と『聞こえやすさ』の情報展を実施した。

チラシを5000部、ポスターを200部作成し、都道府県や市区町村、障害者団体、福祉機関関係団体、教育機関関係団体、視覚障害者・聴覚障害者情報提供施設等、計613か所に配布し、当日は371名の来場があった。



①講演会

視覚障害、聴覚障害、盲ろう、それぞれの分野での専門家5名による講演と、バリアフリー映画「渚のふたり」の上映を実施した。

②相談会

「視覚障害者のための聞こえの相談会」、「聴覚障害者のための見えにくさの相談会」を実施し、それぞれ4名ずつの来談があった。

③見えにくさの体験コーナー

シミュレーションゴーグルを使用し、白内障と視野狭窄それぞれの見えにくさについて、41名が体験した。

④機器展示会

視覚障害関係機器を取り扱う2団体、聴覚障害関係機器を取り扱う4企業の協力を得て、機器展示・便利グッズ即売を実施した。

⑤東京都盲ろう者支援センター見学会

第2会場である東京都盲ろう者支援センター見学会を実施し、約75名の来場があった。

アンケートを回収（146通、回収率39.6%）した結果、参加者の障害の状況は、無しが61%、有りが39%で、有りのうち障害の種類は、聴覚障害（57.7%）、盲ろう（23.1%）、視覚障害（15.4%）という順で多かった。視聴覚に障害のある当事者が全体の約4割を占め、それぞれの満足度は5段階のうち平均4.1と比較的高かった。

今回の啓発イベントでは、気軽に参加してもらうことを目的に、事前申込はせず、当日参加とした。また、参加者数は入れ替わることを予想し、合計1,000名程度を見込んだが、当日の参加者数の合計は371名であった。参加者が参加したプログラムを検証したところ、参加者が入れ替わらず、長時間参加していたためと考えられる。ホールの座席数は380席で結果的に程よい参加者数となったが、今後同様の企画を行う際は、事前申込制で、当日参加可の形式にするなど工夫し、参加人数の把握や、企画・準備をやすくするよう改善を図る。

※付録 2-4：啓発イベントチラシ

※付録 2-5：啓発イベントポスター

※付録 2-6：啓発イベントプログラム

※付録 1-6、付録 1-7：啓発イベントアンケート参照

(4) Webサイトの製作・公開

相談会、広報ツール、啓発イベント、報告書の広報、公開のためにWebサイトを製作し、平成25年9月より公開した。

Webで広報、公開を実施したことで、幅広い対象に情報を届けるとともに啓発す

ることができた。特に、広報ツールをダウンロードできるようにしたことで、利用者がそれぞれの媒体で活用することができた。

※ホームページのURL

- ・視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら
<http://www.tokyo-db.or.jp/kikoenikusa/>
- ・聴覚障害者の方へ 見えにくくなったと感じたら
<http://www.tokyo-db.or.jp/mienikusa/>



付録 1

- 1-1 視覚障害者のための聞こえの相談会 アンケート
- 1-2 聴覚障害者のための見えにくさの相談会 アンケート
- 1-3 視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら アンケート
- 1-4 聴覚障害者の方へ 見えにくくなったと感じたら アンケート
- 1-5 「見えにくさ」とともに生きる
～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～ アンケート
- 1-6 啓発イベントアンケート
- 1-7 啓発イベントアンケート（意見・感想）

【付録1・1】

「視覚障害者のための 聞こえの相談会」に関するアンケート 集計表

団体名:	東京盲ろう者友の会
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業
実施日:	平成25年9月25日、10月23日、11月3日、平成26年2月11日
助成事業の形態:	⑤その他

利用者数:

回答者数: 回答率(%):

《設問1:本日の見えにくさの相談会の内容全般について、ご満足いただけましたか。》

とても満足	14
満足	3
やや不満足	0
不満足	0
計	17

《設問2:どのような点が良かったですか、またはよくなかったですか。》

役立つ情報の収集	8
日頃の生活や活動に役立てる	6
抱えていた問題・不安の解消	5
その他	3
計	22

【その他良かった点(主なもの)】

教えてもらったのは初めてだった。勉強になった。
説明が詳しくわかりやすかった。聞こえの検査をしていただけたことがよかったです。
よく説明してもらってよかった。これまで補聴器を試してみると違和感がある。異物が入るとダメみたいだった。今日説明聞けて納得できない理由が分かった。音がよく聞こえるようになるわけではないということ。ボーダーラインであることがわかった。
知らないことが分かった、助かりました。
来年度も相談会をお願いしたい
勉強になった、落ち込みなくなる、これからもやってほしい。私だけじゃなかったと思えた。
聞こえにくくなってきて、盲ろうに役立つことについて分かった。来てよかった。
分かりやすく説明してもらって嬉しかった。今まで年のせいと片付けられていた。
納得できた。雨の中来てよかった。
語音識別検査をしてもらえてよかった。来てよかった。

【付録 1・2】

「聴覚障害者のための 見えにくさの相談会」に関するアンケート 集計表

団体名:	東京盲ろう者友の会
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業
実施日:	平成25年11月6日、12月4日、平成26年2月11日、3月1日
助成事業の形態:	⑤その他

利用者数:

回答者数: 回答率(%):

《設問1:本日の見えにくさの相談会の内容全般について、ご満足いただけましたか。》

とても満足	9
満足	2
やや不満足	0
不満足	0
計	11

《設問2:どのような点が良かったですか、またはよくなかったですか。》

役立つ情報の収集	6
日頃の生活や活動に役立てる	7
抱えていた問題・不安の解消	5
その他	0
計	18

【その他良かった点(主なもの)】

シールの情報のこと相談をしてくれました。
まず行動することの大切さを学ばせてもらいました。
抱えていた問題、不安はさほどないですが一人暮らしなので将来が気にかかります。日頃あまり会話なしなのでいろいろ話を聞いてくださっただけでも心癒されました。いつまでも元気で少しでも老化を遅らせるように生活していきたいと思いました。情文センターの方々にはいろいろとお世話になります。よろしくお願いいたします。貴重なチャンスをたびたび与えてくださり感謝いたします。
さっそく検査の予約をして前進したいと思います。相談会を勧めていただきありがとうございました。
なかなか人には理解してもらえない事柄を細かく聞いてくださり、丁寧に助言していただきました。これからの生活に少しずつ参考にしてまいります。4人もの人に囲まれて緊張いたしました。ありがとうございました。
話せてよかったと思います。
目の医者が来てくれたら最高だと思うが、そうかんたんにいかないからままならないかも！とりあえず目のつぶれる前の何かの状態をデータにして予防に役立つ様にしたいものです！よろしく。
食物や運動をたくさんするよう努力したいと思います。アドバイスをありがとうございました。

【付録 1・3】

「視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら」アンケート 集計表

団体名:	東京盲ろう者友の会
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業
実施日:	平成25年12月26日
助成事業の形態:	⑤その他

配布機関数: 520 機関

回答機関数: 21 機関 4.0%

〈設問1: アンケートに答えてくださる方の所属を教えてください。〉

障害者団体	10
行政	0
施設	3
学校	4
その他	2
計	17

〈設問2: パンフレットは視覚障害者の方にとって役立つ内容だと思いますか。〉

とても役立つ	13
まあまあ役立つ	3
どちらともいえない	3
あまり役立たない	0
まったく役立たない	0
計	19

〈設問3: 内容のボリュームはいかがでしたか。〉

少ない	2
やや少ない	2
ちょうど良い	16
やや多い	0
多い	0
計	20

〈設問4: 一番よかった情報は何か。(複数回答可)〉

「聞こえにくさ」とは?	3
「聞こえにくさ」の程度と対策	5
「聞こえにくさ」を感じたら	4
補装具・日常生活用具	8
生活訓練	0
通訳・介助者派遣事業	3
計	23

【パンフレットについてのご意見・ご感想をお聞かせください】

内容はわかりやすく、要領よくまとめられています。このようなパンフレットをつくり、配布いただいたことに感謝しています。
高齢化とともにきこえにくさが増加していくと思われるので、知識としてとらえておくことが必要である。
今回は墨字のみのようですが、点字版もあるとありがたいです。
絵や写真が多いため、見やすく興味を引くパンフレットだと思います。色や文字の大きさも視覚障害者が見ることを前提として作成していると思いますので、参考にさせていただきます。
よく内容を理解することができた。
ロービジョンのかたの為には、もう少し字を(フォントを)大きくしていただくと、ご当人に読んでいただけて宜しいかと思います。音声版も貸出した方からは好評でした。
内容が少しむずかしかった
送っていただいてありがとうございます。本校も沖縄盲ろう者友の会とはかかわりを持たせていただいています。在校生に対象者がいないことから意識づけが弱かったように思います。難聴児もいますので、とくに職員が意識を持って声かけできるよう、利用させていただきます。
相談窓口などがあることを知ることでよかったです。
補聴器の型とメリット・デメリットを簡潔に示してあり、分かり易い。イヤーマールドの説明があるのも、一般的に補聴器の知識がない人にとっては良い情報だと思います。
内容がコンパクトで分かりやすく、よかったですと思う。
視覚障害(弱視)があっても大変みやすいし、分かりやすい内容である。

【付録 1・4】

「聴覚障害者の方へ 見えにくくなったと感じたら」アンケート 集計表

団体名:	東京盲ろう者友の会
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業
実施日:	平成25年12月26日 平成26年2月26日
助成事業の形態:	⑤その他

配布機関数: 768 機関

回答機関数: 40 機関 5.2%

《設問1: アンケートに答えてくださる方の所属を教えてください。》

障害者団体	16
行政	3
施設	9
学校	8
その他	4
計	40

《設問2: パンフレットは聴覚障害者の方にとって役立つ内容だと思いますか。》

とても役立つ	28
まあまあ役立つ	8
どちらともいえない	3
あまり役立たない	1
まったく役立たない	0
計	40

《設問3: 内容のボリュームはいかがでしたか。》

少ない	0
やや少ない	7
ちょうど良い	32
やや多い	0
多い	0
計	39

《設問4: 一番よかった情報は何か。(複数回答可)》

「見えにくさ」とは?	13
「見えにくさ」の原因	10
「見えにくさ」を感じたら	10
日常生活に役立つ用具	11
生活訓練	7
通訳・介助者派遣事業	11
計	62

【パンフレットについてのご意見・ご感想をお聞かせください】

内容は良くまとまっています。このようなパンフレットを配布くださり感謝しています。
聴覚障害を持つ人にとって、視力低下の不安、不便さはどこに相談したら良いかも分からない状況があります。今すぐは支援を受ける必要がなくてもこのようなパンフレットによって、情報を得られ、精神的に落ち着ける面が大きいと思います。ありがとうございました。
見て分かる例や実物があつたので分かりやすいと思います。
絵や写真が多く、分かりやすいパンフレットだと感じました。特に「見えにくさ」の事例は実感しやすい内容だと思います。
パンフレットが福祉関係機関や行政に普及すれば、盲ろうという重複障害者に対する理解が社会に広がるきっかけになると思います。
イラストが親しみやすく、不安感をやわらげてくれる良いと思います。写真や文字の大きさ・色等、レイアウトが見やすくいいと思います。P6で自立のための訓練が具体的に紹介されていていいと思います。この情報も視力を失っていく不安感をやわらげてくれると思います。
分かりやすく、大きな字で書かれていて大変よい。
加齢による視力の低下との違いがなかなか分かりにくいと思います。P3の写真など参考に説明できると思いました。
拡大文字、メール拡大文字付きに必要な資料に求めます。
「アッシャー症候群」の名は初めて聞いて知りましたが、DVDを見てなるほどと参考になった。パンフレットは細かい部分を記入されていて分かりやすかった。
とても分かりやすくまとまっていてよかったです。
字も大きく読みやすい。社会資源をいかに利用していくか、もっと啓蒙していかないといけませんね。
コンパクトにまとまっていてよいと思いました。
まとめていて、写真もあって、理解できました。
「どうしよう・・・」と悩んでいる方にお渡ししたら、すぐ活用できる内容だと思いました。
聴覚障害者の方が知りたいと思うことがまとめて簡単に書かれていて、読みやすかった。
体験談など(数人の個性性での)加えるともっとよく分かるし、興味も持っていただけるのでは・・・と思いました。内容は大切なことがコンパクトにまとめてあると思いました。
色刷りで写真や絵が多く、漢字に振り仮名もふってあり、見やすかったです。
とてもよい。特に障害者のまわりの方に伝えられる。
とても見やすいパンフレットでした。活用させてもらいます。ありがとうございました。
聴覚障害者の方というより、一般の方が聴覚障害を理解するためには良い内容だと思う。
とても参考になりました。保護者と一緒にパンフレットを見て、お子さんへの告知について話し合いました。保護者から「おけいこ事の関係の方に見ていただきたい」という申し出がありました。
参考になりますので良かった。
本人だけではなく、家族や支援機関にも、わかりやすくまとめられた内容で、いいと思います。
将来、資格に苦手を持つ可能性のある方に、前もってわかりやすく書かれていると思いました。
大変良い資料なので、盲ろう者の方だけでなく 家族の方や職場の方など周囲の方に読んでいただきたいと思います。
当館の利用者は聴覚障害者の方ではないので、せっかく送っていただいても活用できません。鑑賞の対象者が施設向けではないような気がしました。内容が浅い。
(DVDのアンケートと同様)視力も聴力も低下していくので、このDVDをみて、人ごとではない、と思いました。皆様、頑張って下さい。

【付録 1・5】

DVD「『見えにくさ』とともに生きる～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～」アンケート 集計表

団体名:	東京盲ろう者友の会
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業
実施日:	平成26年2月26日
助成事業の形態:	⑤その他

配布機関数: 768 機関

回答機関数: 32 機関 4.2%

《設問1:アンケートに答えてくださる方の所属を教えてください。》

障害者団体	13
行政	2
施設	7
学校	8
その他	2
計	32

《設問2:アッシャー症候群について知っていましたか。》

よく知っている	4
ある程度知っている	12
聞いたことはある	6
まったく知らなかった	10
計	32

《設問3:動画をご覧になりましたか。》

見た	30
見ていない	2
計	32

《設問4:（「見た」と答えた方）動画の内容は聴覚障害者の方にとって役立つ内容だと思います

とても役立つ	17
まあまあ役立つ	11
どちらともいえない	2
あまり役立たない	0
まったく役立たない	0
計	30

《設問5:（「見た」と答えた方）長さはいかがでしたか。》

短い	0
やや短い	5
ちょうど良い	24
やや長い	1
長い	0
計	30

《設問4:（「見ていない」と答えた方）見ていない理由についてお聞かせください。》

時間がないから	0
関心がないから	0
DVDで視聴するのが面倒だから	0
DVDプレーヤーがないから	2
その他	0
計	2

【ご意見・ご感想をお聞かせください】

アッシャー症候群についてもう少し深い内容だとよいと思いました。
貴重なDVDありがとうございました。
知識として知っているが、動画で紹介していただき、理解が深まりました。
アッシャーに対する知識を深めることができたと思う。
見えにくさが映像化されていて分かりやすかったです。
村岡さんの他に、もう1～2人の体験を聞きたいと思います。
大学の授業でも使わせていただきます。
「自分だけではない」と思って頂き、つながりが生まれるといいなと感じました。
主人公の女性が心も回復していく過程がとてもわかりやすく、共感も出来ました。他の会員にも見ていただこうと思います。
体験談としてご本人が話されているので、病気の症状も分かりやすかった。
聞こえに問題がある人は視覚情報に頼ることが多い。視力保護についての情報もあると良い。
盲ろう者に対する理解と支援について再確認することができました。教材の一つとして利用していきたいと思います。
盲ろうの方にどのような支援がされているか、実際にどのように生活されていらっしゃるかが良く分かりました。感動しました。ありがとうございました。
あまり知られていない障害であること、症状の現れ方が個々で異なること、対応方法や相談できる場所があることを知ることができ、大変参考になりました。
症状か生活かテーマをしぼってもう少し詳しく知りたいと思いました。
本だけでは、わからなかったことが、DVDを見てさらに盲ろう者の生活がわかっていいと思います。
地域、地区にあわせた内容が、もうすこし詳しくあるとよいと思いました。
アッシャー症候群に限定している為、仕方ないですが、手話を母語としていない盲ろう者の例もあれば、もっと良かったと思います。
先天性の聴覚障害に加えて網膜色素変性症、アッシャー症候群で視覚障害になられて、ひきこもりになられた経験があったご様子。本当にショックが大きかっただろうと思います。盲ろうの方が全国で1万4千人もおられるとは驚きです。またアッシャー症候群という言葉は初めて聞きました。しかし、一般の短大を卒業され大手電機メーカーのOLをされていた経験が、今の盲ろう協会の職員として大きく生かされ、誠実な人柄の基盤の上に楽しく仕事に向かわれているのではないかと思います。さらに悩み苦しんだ分、悩んでおられる方々の思いに寄り添い支えていって頂きたいと思いました。私の娘も32歳で網膜色素変性症を半年前に発症しました。視野狭窄、夜盲、視力0.02、乱視で時々人とぶつかっていたそうです。現在会社員の夫と1歳3か月の男児とともに生活し、看護師として週3日パートをしています。(私は大阪在住ですが)娘は横浜在住なので、心配ですが、何も応援できません。ですから、村岡さんのことが他人事とは思いませんでした。
最近弱視になってきている利用者がいるので、是非見てもらいたいと思った。また、通訳介助者の養成講座や手話サークルなどの学習会でもぜひ活用してもらいたいと思う。
「アッシャー症候群」初めて知りました。私に出来ることは、周りの人に、この事を伝えて広めていくことだと思います。
特にありません。
視力も聴力も低下していくので、このDVDをみて、人ごとではない、と感じました。

【付録 1・6】

「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展 アンケート結果について

団体名:	東京盲ろう者友の会	
助成事業名:	盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業	
実施日:	平成26年2月11日	
助成事業の形態:	②フェスティバル、シンポジウム、ネットワーク会議等の開催	
パンフレット配布部数:	371 通	
回答部数:	146 通	39.6%

1 方法

第1会場(ヒューリックホール)と第2会場(東京都盲ろう者支援センター)で情報展のパンフレットとともに、アンケートを配布した。配布数は371通であった。

アンケートについては、第1会場出入口に回収ボックスを設置し、回収した。後日、FAXや電子メールで送付されてきたアンケートについても回収の対象とみなした。

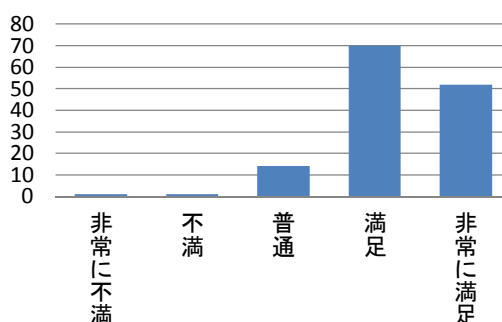
2 結果

146通を回収した(回収率39.6%)。すべてを有効回答とし、集計を実施した。

1. 満足度

(1)プログラム全体の満足度

	人数	割合
非常に不満	1	0.7%
不満	1	0.7%
普通	14	10.1%
満足	70	50.7%
非常に満足	52	37.7%
合計	138	100.0%



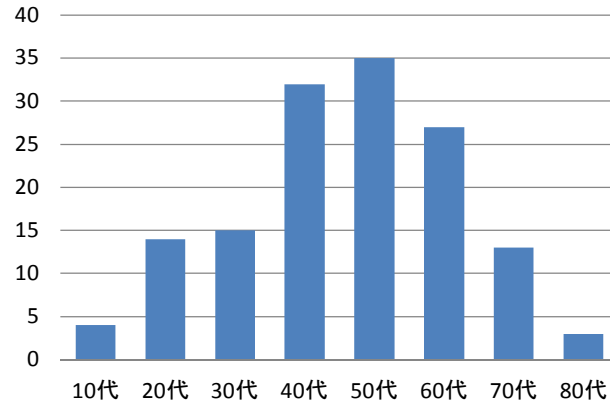
(2)属性ごとの状況と満足度

① 性別

	人数	割合	満足度
男性	42	30.7%	4.2
女性	95	69.3%	4.3

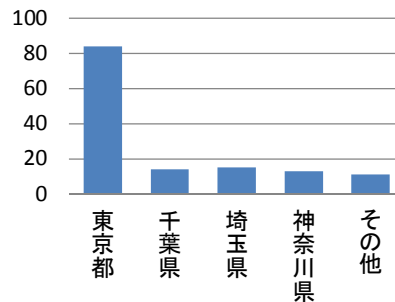
② 年齢

	人数	割合	満足度
10代	4	2.8%	4.8
20代	14	9.8%	4.4
30代	15	10.5%	4.0
40代	32	22.4%	4.2
50代	35	24.5%	4.2
60代	27	18.9%	4.1
70代	13	9.1%	4.7
80代	3	2.1%	4.5



③ 都道府県

	人数	割合	満足度
東京都	84	61.3%	4.2
千葉県	14	10.2%	4.1
埼玉県	15	10.9%	4.1
神奈川県	13	9.5%	4.4
その他	11	8.0%	4.3



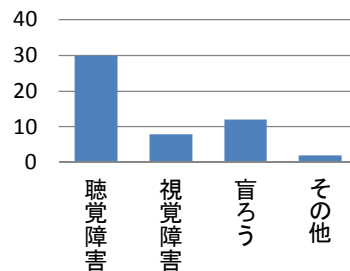
※「その他」の記述欄: 茨城県4、静岡県2、群馬県2、岐阜県1、福岡県1、愛知県1

④ 障害

	人数	割合	満足度
なし	80	60.6%	4.3
あり	52	39.4%	4.1

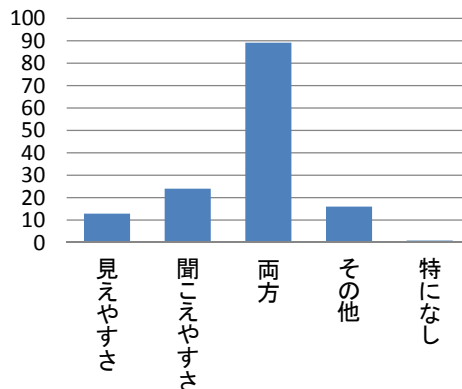
⑤ 障害の種類

	人数	割合	満足度
聴覚障害	30	57.7%	4.0
視覚障害	8	15.4%	4.1
盲ろう	12	23.1%	4.2
その他	2	3.8%	4.5



⑥ 参加目的

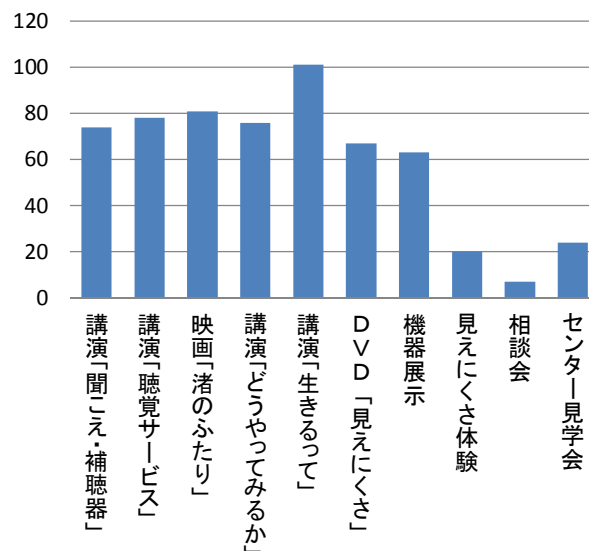
	人数	割合	満足度
見えやすさ	13	9.1%	3.8
聞こえやすさ	24	16.8%	4.1
両方	89	62.2%	4.3
その他	16	11.2%	4.4
特になし	1	0.7%	4.0



※「その他」の記述欄: 映画「渚のふたり」3、福島氏の講演3、アッシャー症候群のDVD1、福祉制度について1 など

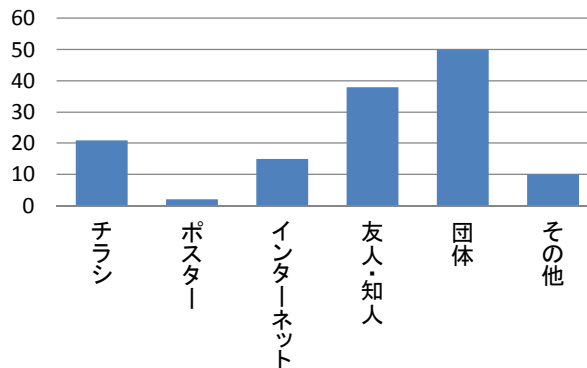
⑦ 参加プログラム(複数回答可、有効回答は142通)

	人数	割合	満足度
講演「聞こえ・補聴器」	74	52.1%	4.4
講演「聴覚サービス」	78	54.9%	4.4
映画「渚のふたり」	81	57.0%	4.3
講演「どうやってみるか」	76	53.5%	4.3
講演「生きるって」	101	71.1%	4.3
DVD「見えにくさ」	67	47.2%	4.4
機器展示	63	44.4%	4.2
見えにくさ体験	20	14.1%	4.4
相談会	7	4.9%	4.4
センター見学会	24	16.9%	4.5



⑧ 知ったきっかけ

	人数	割合	満足度
チラシ	21	15.4%	4.3
ポスター	2	1.5%	4.5
インターネット	15	11.0%	3.9
友人・知人	38	27.9%	4.3
団体	50	36.8%	4.3
その他	10	7.4%	4.1



※「その他」の記述欄: 立ち寄り2、新聞1、ラジオ1 など

2. 障害の種類ごとの参加状況

(1) 障害の種類と参加目的の組み合わせ

	聴覚障害		視覚障害		盲ろう		その他		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
見えやすさ	2	6.9%	1	12.5%	1	8.3%	0	0.0%	4	7.8%
聞こえやすさ	9	31.0%	1	12.5%	4	33.3%	0	0.0%	14	27.5%
両方	15	51.7%	6	75.0%	4	33.3%	2	100.0%	27	52.9%
その他	3	10.3%	0	0.0%	3	25.0%	0	0.0%	6	11.8%
合計	29	100.0%	8	100.0%	12	100.0%	2	100.0%	51	100.0%

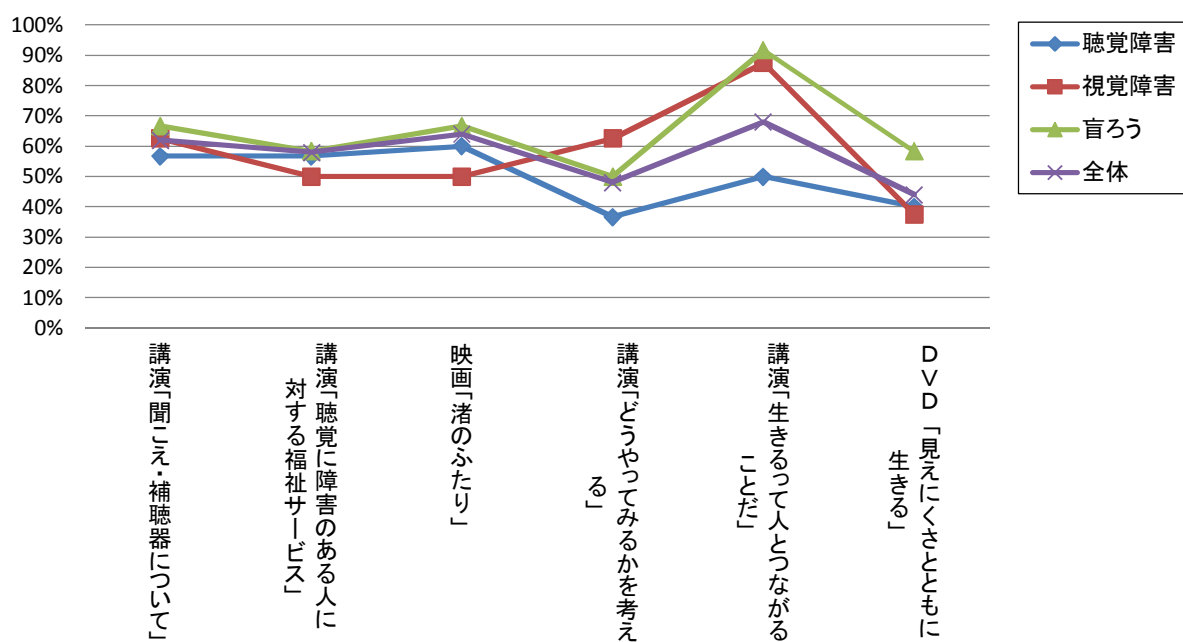
(2) 障害の種類と知ったきっかけの組み合わせ

	聴覚障害		視覚障害		盲ろう		その他		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
チラシ	5	19.2%	1	14.3%	2	16.7%	0	0.0%	8	17.0%
インターネット	1	3.8%	3	42.9%	2	16.7%	0	0.0%	6	12.8%
友人・知人	7	26.9%	1	14.3%	2	16.7%	1	50.0%	11	23.4%
団体	11	42.3%	2	28.6%	5	41.7%	0	0.0%	18	38.3%
その他	2	7.7%	0	0.0%	1	8.3%	1	50.0%	4	8.5%
合計	26	100.0%	7	100.0%	12	100.0%	2	100.0%	47	100.0%

(3) 障害の種類と参加プログラム(複数回答可)の組み合わせ

	聴覚障害 (n=28)		視覚障害 (n=8)		盲ろう (n=12)		その他 (n=2)		合計 (n=50)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
講演「聞こえ・補聴器」	17	56.7%	5	62.5%	8	66.7%	1	50.0%	31	62.0%
講演「聴覚サービス」	17	56.7%	4	50.0%	7	58.3%	1	50.0%	29	58.0%
映画「渚のふたり」	18	60.0%	4	50.0%	8	66.7%	2	100.0%	32	64.0%
講演「どうやってみるか」	11	36.7%	5	62.5%	6	50.0%	2	100.0%	24	48.0%
講演「生きるって」	15	50.0%	7	87.5%	11	91.7%	1	50.0%	34	68.0%
DVD「見えにくさ」	12	40.0%	3	37.5%	7	58.3%	0	0.0%	22	44.0%
機器展示	11	36.7%	3	37.5%	10	83.3%	1	50.0%	25	50.0%
見えにくさ体験	3	10.0%	1	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	4	8.0%
相談会	2	6.7%	1	12.5%	1	8.3%	0	0.0%	4	8.0%
センター見学会	5	16.7%	2	25.0%	0	0.0%	2	100.0%	9	18.0%

障害種別ごとの参加率



全体	<p>充実した情報展でした</p> <p>開場時間を明示してほしい。プログラムがとても読みづらい(白黒POP体、会場図)。「聞こえにく</p> <p>出席してよかったです 大変勉強になりました。</p> <p>もっともっと「もうろうしゃ」の事をしてほしい。</p> <p>健常者と障害者の境がなくなっていると感じますが、障害＝生活の制約をもっと広く知ってもら</p> <p>良いチャンスだが、関係者だけの集まり、障害を持つ人も他の障害を知っていただくことが肝要。</p> <p>指点字というものを初めて知りました。</p> <p>きれいな場所でゆったりと参加でき、とてもよかったです。</p> <p>すばらしい展示です。これからも続けてください。</p> <p>常設の盲ろうのグッズを販売する施設がないと聞きました。点字図書館や日本盲人会連合のよ</p> <p>うな、グッズの常設施設ができるとよいですね。情報(視覚・聴覚などの機能低下で)入手力の弱</p> <p>い方々に、便利なものがとどくといいですネ</p> <p>休憩時間がもう少し長いと各ブースがゆっくり見る事が出来た</p> <p>大変良い試みだと思います。ありがとうございました</p> <p>貴重な体験を見学できました。</p> <p>参加してとっても勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>今回は初めて参加を頂き、盲ろう者についても、勉強させています</p> <p>聴覚障害のイベント 講演会にはよく参加しますが聞こえにくさにしほりすぎる きらいを感じていま</p> <p>した。この会は障害のはん囲を広くとらえている面があったので、参加して自分の世界が広がっ</p> <p>てゆくような、嬉しい気がしています。一つ困ったのは、スタッフの種類が多すぎて、誰に道をきい</p> <p>たらよいか、わかりにくかったり、道具の説明ができる人なのか、盲の介助者か、引率の人なの</p> <p>駅から近く来やすかったです。同じ会場の中に体験コーナー、機器展示があって行きやすく良</p> <p>かったと思います。色々勉強になりました。</p> <p>たくさんの方が集い、とても充実したイベントだと感じました。</p> <p>書籍の販売コーナーがありとても良かったです。福島先生の本は書店で在庫がないことが多く、</p> <p>今日は揃っていて助かりました。2冊購入しました。</p> <p>書籍などの販売もあれば良いと思いました。</p> <p>パンフレット・チラシ等の文字拡大してほしい。グッズの種類を増やしてほしい。信号機の変化(赤</p> <p>→青、青→赤)を知らせる物がほしい。</p> <p>大変参考になりました。所在地をさがすのに大変でした。</p> <p>ちょっと立ち寄った場所でしたが、思わぬ貴重な体験をさせていただくことができました。看護師</p> <p>をしているので、相手の立場に立つこと 気持ちを少しでもわかるよい機会になりました。ありが</p> <p>とうございました。</p> <p>健常者は、弱者をもっと見守ってやらないといけない。</p> <p>少し内容が多すぎたようにも感じましたが、楽しく一日参加させて頂きました。また開催して頂き</p> <p>とても良い情報展でした。もっとPRしていただき、多くの人が参加できるよう望みます。</p> <p>広く伝えてほしい(PR)</p> <p>当日はとても寒い日でした。和光市から参加しましたが、少し早くついてしまいました。10時半ぎり</p> <p>ぎりにならないと会場が空かないということで、ほかで暇つぶしをすることになりました。準備の都</p> <p>合などいろいろあるとは思いますが、せめて30分ぐらい前には入れるようにご配慮いただければ</p> <p>と思いました。最後になりますが、補聴器を使い始めて30年以上になるものとして、最近聞こえに</p> <p>くさ、見えにくさを感じている人がより良い方法で生活の質を向上させていただきたいと願ってお</p> <p>大変感動いたしました。</p> <p>(見えない)(聞こえない)障害があるにもかかわらずずっと生きていらっしやるのに感心しまし</p> <p>視覚や聴覚の低下は、加齢によっても起こることなので 障害の有無に関らず、誰もが 身近な</p> <p>こととして考えさせられた。</p> <p>自分が障害を持っているからこそ、他の障害を理解する必要があることを通訳介助者と協力しな</p> <p>がら、また、ユーモアのセンスをもって自分らしく、自分の判断でやっていくことに素晴らしさを感じ</p> <p>ました。制度が少しずつ緩和されていくことを願ってやみません。頑張ってください。</p> <p>出席者の人数がわかるといいです</p> <p>私も高校で手話や点字を勉強しています。毎回、盲ろうの方と出会うたび、もっと上手くなろうと思</p> <p>います。指点字もがんばります！！</p> <p>視覚障害、聴覚障害についての理解が深められました。ありがとうございました。</p> <p>わかりやすく盛りだくさんの内容でよかったです。パンフレット 映像ともに友の会の活動で生か</p> <p>せそうです。</p> <p>とても勉強になりました。ありがとうございました。</p> <p>来て良かった～の一言です。</p>
----	--

講演	<p>心に残ったことば⇒・補聴器を使いこなすことは自分のきこえ方をよく知ること(柴崎さんのことば)・福祉の制度が変わったことにアンテナを張っていてほしい(森さん〃)・映画、DVDなど発売されるといいですね・どうやってみるか→どう やってみるか? or どうやってみるか?...なるほど!!・つらいこと、かなしいこと、突き抜ければ笑える(福島さん)・協力しあっている社会に!!(村岡さん)やってきて収穫大です。ありがとうございました。</p> <p>講演は1時間以内なのが、よかった。1つのテーマを短く、色々な講演が聞けたので、勉強になりました。</p> <p>励まされることが多く、参加できてよかったです。</p> <p>盲ろう者として、他の人の話しを聞いて良かった。</p> <p>講演の内容も面白かったし、見えにくさの疑似体験もとてもよかったです。</p> <p>特に福島さん、村岡さんの講演が素晴らしかったです。逆に元気をもらいました。ありがとうございました。</p> <p>福島氏の講演にて、質疑応答での優しいユーモア溢れる対答に感涙致しました。ありがとうございました。</p> <p>聴覚障害の事と、福島先生のお話が聞いて良かったです。私以上にたくさん困っている人がいる事を知りました 世界が、広がって良かったです。</p> <p>どの話も勉強になりましたが、福島先生のお話は特にすばらしかったです。大学院でのゼミも勉強になりましたが、このようなどころできく、先生のお話はさらに力強く、多くの人に励ましを与えている事を知りました。</p> <p>森さんは本当にあたたかい方です 福島先生はすごい、明るい、強い性格の持ち主ですね。ありがとうございました</p> <p>福島先生の話をして、質問もでき、そして実際にお会いできて良かったです</p> <p>福島教授の講演は大変おもしろくて時間が短いなあと思った。もったいなかった。</p> <p>聞こえやすさの講演をきいて友人達には是非伝えたい、又、特に妻。</p> <p>言葉がわからないと、言われた時などは、どの様にわかってもらえばかばかり考えてしまっていて、ついつい、早口で言っているのですネ これからは、少しゆっくりめに区切って、お話をする様にします、勉強になりました</p> <p>視覚障害のある方がいらっしゃるのに、尾形先生のスライドがその方々にはとても見づらいものでした。(泣き顔の絵文字あり)※私でも見づらい(泣き顔の絵文字)すみません こんなこと書いて(エ)でスライドが見ずらかったのが残念でした。</p> <p>村岡さんのDVDとお話はとてもよかった。元気をもらった。がんばってほしい。</p> <p>村岡さんのよいお人柄が、会場を温かくしてくれ、幸せになりました。</p>
渚のふたり	<p>より多くの場所で開催いただけると、視覚障害、聴覚障害、盲ろう者の理解が広がると思います。できれば、東京大阪だけでなく、日本各地でバリアフリー映画(渚のふたり)公開していただけたらありがたいです。</p> <p>渚のふたり-最後まで見たいと思いました</p> <p>「渚のふたり」20分間で終わり、ちょっと残念に思いました。</p>
機器展示	<p>高齢者にとって老化した能力を補う便利な機器を多く見て有意義?な催しであった。(手のイラストもう少し手軽なものも展示してあるとよいと思った。</p> <p>筆談で失聴の不便はある程度解消されると思いますが まだまだ不十分です。簡単に筆談できるグッズを開発して下さい。</p> <p>もう少し、出展企業をふやしてほしい。</p>
見えにくさの体験コーナー	<p>私用のため、短時間しか見学できませんでした。次の機会があれば、ゆっくり見学したいです。見えにくさの体験ができて良かったです。</p> <p>視野狭窄や白内障の体験をして、思った以上に生活することが大変だと思いました。このような体験が地域単位で、できると、もっといろいろな障害や人に対する理解につながると思うので、広がってほしいと思います。講演もとても勉強になりました。手話講習会に通いはじめてもうすぐ2年たつ、手話学習者です。</p> <p>体験コーナー-みんなが体験出来るコーナーを継続してほしい</p>
参加理由	<p>子供が障害をもっており、大人になった時に、人に助けってもらう手段を、自分で生きる力を学べればと思い参加しました。ありがとうございました。</p> <p>私も視力がおちると思います。話を聞いて大丈夫だと思います。</p> <p>視力障害です。見えにくい人です。最近右耳のきこえもわるくなり情報を探しにきました。来てよかったと一言につきる参加でした。村岡さんと逆の発生です。</p> <p>手話の学習者です。今日は聴覚障害について何か学びたいと思いました。又同じ仲間の中にお子様が見えにくい方がいらして、色々伺い興味を持ち伺いました。特に体験が勉強になりました。手話通訳の方が「見やすい手話」についてのアドバイスを下さり、参考になりました。仲間に伝えます。多くの方が体験していただきたいですね</p> <p>私は手帳は視覚ベースの職場に勤務していますが、近年聴覚を併せ持つ方が入られ、勉強のつもりで参りました。たいへん参考になりました。お礼申し上げます。</p> <p>地元での県版が開けたらと思って来てみました。聴覚障害、視覚障害を含めて、多くの方に知って頂けたらと思います。ありがとうございました。</p>

東京都盲ろう者支援センター	イベント意見・感想 展示室の展示方法をもう少し考えてほしいです スタッフの方も少なく、展示室におかれているものは何に利用されるかわかりませんでした。
開催希望	<p>来年度以降も是非開催していただきたいです。 このような催をもっと開いてほしい 定期的をお願いします。 今回とてもよくて楽しむことができた また機会があればぜひ参加したい 視覚障害のボウです 埼玉でも開催望みます。70才以上ばかりで寒い時期の電車に乗ってはおっくうの事「ワガママ者ばかりです」 くりかえし開催してほしいです、よろしくお願いします！！ 大変参考になりました。また、このような催しを開催して欲しいと思います。 来年もぜひ開催して下さい。 今年初めて参加、毎年このようなイベントを開いて欲しいね。 今回来れなかったかた、また知らなかった方もいらっしやると思います けいぞくしての開催をお願いします どれも興味深い講演でした。1日では時間がたりないので今後2日間開催にしては？ 毎年1回開催してほしい。 又この様な企画をお願いします。(定期的に)</p>
情報保障	<p>要約筆記があり安心して聞くことができた。 ループ席からはPC要約筆記の文字が単眼鏡を使っても見えず、補聴器で聞くのをあきらめ、PC要約筆記者席へ移動した。両方に障害がある人向けのものなので。 磁気ループ対応エリアで聞いていたが、真正面でないと、よく入らない(きこえない) 耳掛け式のゆえに？でしょうか。磁気ループの他に要約筆記モニターにも見ていたいの…。初めての参加でしたが、勉強になりました。 字幕の前のカメラマンが大変じゃまである。今後も参加したい、講演者と字幕スクリーン、磁気ループ席等の配置を再考して下さい 点字表現と手話表現の両方が見れて良かった(情報保障) 磁気ループ設置の位置が正面に向かって右側にあると、手話通訳 要約筆記の情報保証が、見えにくいいため、利用しづらかった。 PC要約筆記を見たくて来ました。関係者(撮影?)がスクリーンとプロジェクターの間を何度も通ったことに強く違和感をもちました。反対側からさつえいするなどほかに方法があったかと思えます。要約のスクリーンは高いところの方が良かったのでは？ 村岡さんが手話で話している時に、舞台上で手話通訳をしていたのは、私には不要と思ったが、意図があつてのことなら、すみません。今日は、とても充実した内容で、本当に来てよかったです！ありがとうございました。 映画上映の際の音声通訳の手話通訳がほしかった。(見て分かるとはいえ、ほしかったです)。このようなイベントはとても重要。年1回とか定期的に企画してもらえるとよいと思います。 磁気ループは音が小さく、使えなかった。もう少しボリュームを大きくしてほしかった。自分は、人工内耳ですが、目を使う事が多く、最近、目(視力)が悪くなってきた。将来を心配しているので、今日参加した。 ループと要約筆記を必要とするので、少し席が離れていたため、もう少し工夫がほしいです。とても勉強になりました。次回も参加します 磁気ループ対応エリアを会場図に明示すべき、後方座席に配置すべき。</p>

付録 2

- 2-1 視覚障害者の方へ 聞こえにくくなったと感じたら
- 2-2 聴覚障害者の方へ 見えにくくなったと感じたら
- 2-3 「見えにくさ」とともに生きる
～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～
- 2-4 啓発イベントチラシ
- 2-5 啓発イベントポスター
- 2-6 啓発イベントプログラム

視覚障害者の方へ

聞こえにくくなった
と感じたら



「聞こえにくさ」とは？

「会話をしているときに聞き返すことが多くなった」、「以前より音量を大きくしないとラジオの音が聞こえない」など、聞こえにくさを感じることはありませんか？
まずは、ご自身の聞こえの状態を確かめてみてください。

- 会話をしていて聞き返すことが増えた。
- 聞き間違いが多い。
- 「話し声が大きい」と言われる。
- 後ろから呼ばれても気付かないことがある。
- 車の接近に気付かないことがある。
- 集会や会議など複数の人との会話でうまく聞き取れない。
- 電子レンジの音やドアのチャイムの音が聞こえにくい。
- 家族に「テレビやラジオの音量が大きい」と言われることがよくある。



聞こえにくさの種類

■ 伝音性難聴

中耳炎や耳硬化症などが原因で、音を伝える機能に障害が起こるものです。

■ 感音性難聴

聴神経から脳にかけての、音を聞き分ける機能に障害があるもの。「加齢」「遺伝」「大きな音を聞き続ける」「ストレスが重なる」など原因は様々です。

■ 混合性難聴

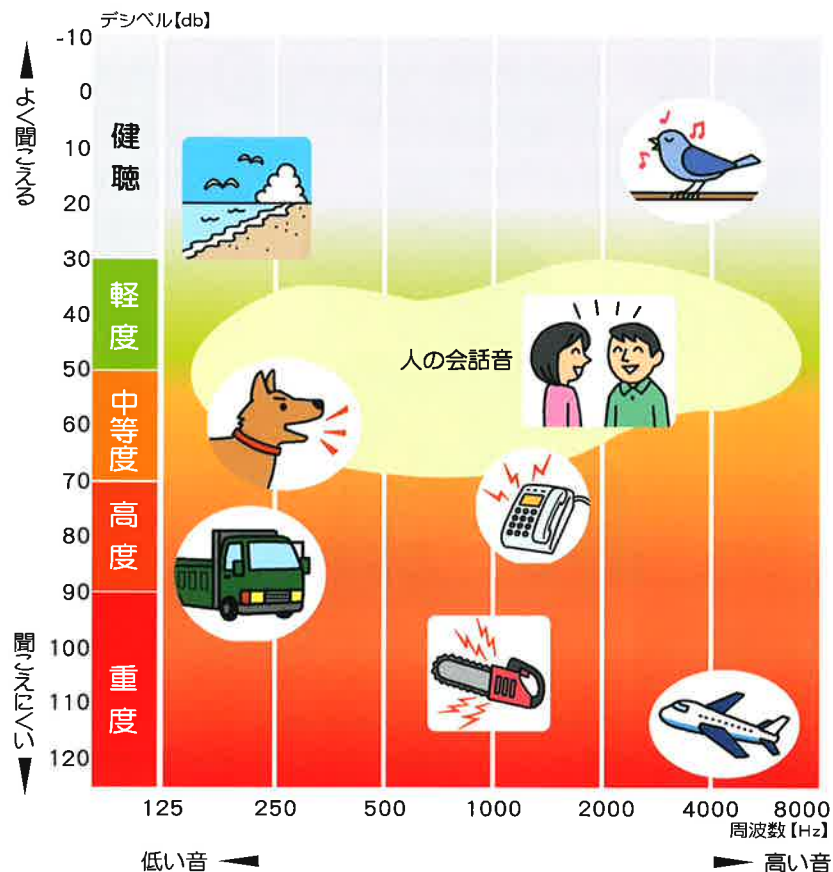
伝音性難聴・感音性難聴の両方を原因とする難聴です。

※あてはまる項目の数が3個以上の場合には、聞こえにくさが進行している可能性もあります。
(日本補聴器工業会のニュースレターより抜粋)

2

「聞こえにくさ」の程度と対策

聞こえにくさの程度には個人差があります。個々の状態に応じて対策をすることでコミュニケーションをはじめ、日々の生活をより良くすることができます。



■ 軽度難聴：30～50dB

小さな声や、離れた場所からの声が聞こえにくい周囲からは聞こえているように見えてしまいます。会話をする際の位置関係を聞こえやすいように変えてみるほか、補聴器の利用も検討してみましょう。

■ 中等度難聴：50～70dB

話者が複数の場合や、広い場所での会話が聞き取りにくい

専門家と相談しながら、自分の聞こえにあった補聴器を選び、調整をすることが重要になります。

■ 高度難聴：70～90dB

互もとで話しかけられてもほとんど聞き取れない中等度難聴と同様、補聴器の選択と調整が大事です。また、移動介助やコミュニケーションのサポートをする「通訳・介助者」の活用も検討してみましょう。

■ 重度難聴：90dB～

補聴器を装用してもほとんど聞き取れない

独力で情報を得ることが難しくなります。移動介助やコミュニケーションのサポートをする「通訳・介助者」の活用が不可欠です。

「聞こえにくさ」を感じたら

聞こえにくさを感じたら、耳鼻科を受診したり、役所や福祉事務所などへ相談に行くことをお勧めします。

裏表紙に記載している3つの専門機関では、下記の①②③どの段階でも相談を受け付けています。

1 耳鼻科の受診

聴力レベルを計測します。高度・重度の難聴と診断されたら、聴覚障害の身体障害者手帳の交付を受けるために、指定医に診断書・意見書を書いてもらいます。



2 市区町村に相談

地域の役所や福祉事務所に行き、身体障害者手帳を申請し、福祉サービスの説明を受けます。



3 福祉サービスを利用

手帳の交付を受けることで利用できる福祉サービスを、役所や福祉事務所、支援機関に申し込みます。



※自治体から補聴器や日常生活用具などの支給または助成を受けることができます。

聴覚障害の等級

音の聞こえのレベルを表すデシベル (dB) や、言葉としての理解の度合いを示す語音明瞭度などによって、聴覚障害の等級は2級から6級まで規定されています。等級によって利用できるサービスは異なります。

4

補装具 利用できるサービス①

補装具は、失われた機能を補う用具です。聴覚障害の補装具には補聴器とイヤーマールドがあります。補聴器にはさまざまな機能・形状があり、購入する際は、必要な機能を医師や言語聴覚士、認定補聴器店の補聴器技能者などに相談すると良いでしょう。

耳あな型補聴器



【メリット】

耳に入れるので目立たない。音の出ている方向がわかりやすい。

【デメリット】

自分の声が響くことがある。耳に装着したまま操作ができず、手元での操作も難しい。

耳かけ型補聴器



【メリット】

機種が多く、さまざまな聞こえに対応できる。

【デメリット】

耳あな型に比べるとやや目立つ。

ポケット型補聴器



【メリット】

スイッチ等が大きめで手元での操作が簡単。

【デメリット】

コードが引っかかりやすく、服のすれる音などが入りやすい。

イヤーマールドについて



耳かけ型やポケット型の補聴器を装用する際に必要になるイヤーマールド。耳の穴に入れて使用します。補聴器本体と比べて耐用年数が短い消耗品です。快適な聞こえの状態を保つためにも、定期的な交換やメンテナンスを行う必要があります。

5

日常生活用具

利用できるサービス②

日常生活を快適に送るために必要な機器・用具である「日常生活用具」は、市区町村を通じて、助成を受けることができます。

■屋内信号装置

来客時のチャイム音、電話やファックスの着信音、乳幼児の泣き声、時計のアラームなどを、振動で知らせます。



■火災警報器

屋内信号装置の一部として、振動や光、において火災の発生を知らせます。



■自動消火装置

火災が発生したときに、自動的に薬剤などで消火します。

6

生活訓練

利用できるサービス③

聞こえにくさによる生活の困難さを解消するために様々な訓練を受けることができます。

■パソコン訓練

画面を読み上げる機能や、点字ディスプレイを利用したパソコンの使い方などを習得します。



■コミュニケーション訓練

点字の読み書きや指点字、手話、手書き文字などのコミュニケーション方法を学びます。



通訳・介助者派遣事業

利用できるサービス④

目と耳の両方に障害のある方に、外出とコミュニケーションをサポートする制度が「通訳・介助者派遣事業」です。例えば、通院の際に、自宅と病院の間を安全に移動できるよう支援するとともに、医師や薬剤師の説明を聞こえやすいように耳元で復唱します。通院の他にも、役所での手続き、普段の買い物、講習会やサークルへの参加など、様々な場面で利用できます。

※視覚障害者向け移動支援サービスである「同行援護」も併用可能です。

聴覚を活用したサポート方法

■音声通訳

補聴器を使っても、人が多い場所では声の聞き分けが難しく、その場に誰がいるのかも把握が困難になります。



そのような状況で有効な

のが「音声通訳」です。通訳・介助者が耳元や補聴器のマイクに向かって、発言している人の名前やその内容、その場の雰囲気などを伝えます。個々の聞こえ方に応じて、声の大きさや抑揚、早さなども適宜調整します。

さらに聞こえにくさが進んだら

■点字筆記(ブリスト、パソコンなど)

点字の触読ができる場合は、「ブリスト」と呼ばれる速記用点字タイプライターで打たれた点字を読み取ります。パソコンに入力した文字を点字ディスプレイに出力し、点字を読み取る方法もあります。

■指点字

両手の人差し指から薬指の計6本に、点字タイプライターを打つようにタッチして言葉を伝えます。点字筆記に比べ、特別な道具がいらないことが利点です。





お近くの相談窓口までご連絡ください。

視覚・聴覚の両方に障害のある方や、
そのご家族、関係者の方からの様々な
ご相談を受け付けています。
また、同じような障害がある方が集まる
交流会の開催や、生活訓練、通訳・介助者
派遣事業などを実施しています。

東京都盲ろう者支援センター（認定NPO法人 東京盲ろう者友の会）

■〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-32-6 コスモス浅草橋酒井ビル2階
■TEL:03-3864-7003 ■FAX:03-3864-7004
■E-mail:tokyo-db@tokyo-db.or.jp
<http://www.tokyo-db.or.jp/>

聴覚障害のある方やそのご家族、
関係者の方々からの様々なご相談を
受け付けています。

社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター

■〒153-0053 東京都目黒区五本木1-8-3
■TEL:03-6833-5004 ■FAX:03-6833-5005
■E-mail:soudan@jyoubun-center.or.jp
<http://www.jyoubun-center.or.jp/>

各種相談や、視覚障害者向け
福祉機器や便利グッズの販売を
行っています。

日本盲人福祉センター（社会福祉法人 日本盲人会連合）

■〒169-8664 東京都新宿区西早稲田2-18-2
■TEL:03-3200-0011 ■FAX:03-3200-7755
■E-mail:jouhou@jfb.jp
<http://www.normanet.ne.jp/~nichimo/>

発行・作成：特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会
協 力：社会福祉法人 日本盲人会連合
社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター
特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse
東京大学先端科学技術研究センター 福島研究室
発行年月日：2013年10月

ちょうかくしょうがいしゃ かた

聴覚障害者の方へ

み
見えにくくなった
かん
と感じたら





① 「見えにくさ」とは？

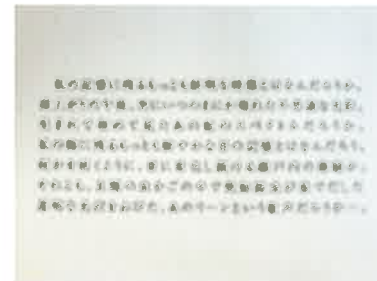
「眼鏡をかけても文字がかすんで見える」、「手話が読み取りにくくなった」など、見えにくさを感じることはありませんか？ まずは、ご自身の状態を確かめてみてください。

日常生活での困りごとの具体例

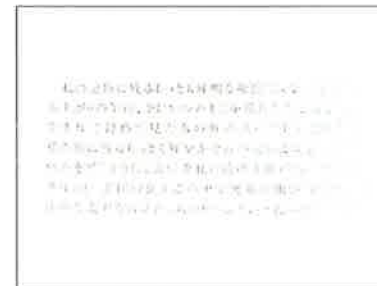
- 小さな文字の読み取りに苦勞するようになった
- 天気の良い日は、目を開けていられないほどのつらさや痛みがある
- 人にぶつかることが増えた
- 足元がわかりにくく、つまづきやすくなった
- 落としたものを見つけにくくなった
- 夜になると文字や手話が見えにくく感じる
- 見たいものが正面から見えず、横目で見るようになった

このような状況がある場合は、右のような「見えにくさ」が表れている可能性があります。

■ ぼやけ 形や細かい部分が見分けにくい



■ まぶしさ 日光や照明をととても強く感じる





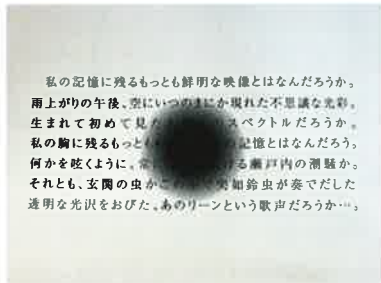
「見えにくさ」の原因

見えにくさは、以下のような病気が原因となります。

■ 視野狭窄



■ 中心暗点



■ 緑内障

視神経に問題が起こり、視野が狭くなる。

■ 糖尿病網膜症

網膜の血管が損傷し、視野が狭くなったり、ぼやけて見えたりする。

■ 黄斑変性症

網膜の中心の黄斑部に病変が生じ、視界の中心がぼやけたりゆがんだりする。

■ 網膜色素変性症

網膜の細胞に病変が生じ、暗い場所で物が見えにくくなり、徐々に視野が狭くなる。

アッシャー症候群とは？

先天性の聴覚障害者が網膜色素変性症を発症する「アッシャー症候群」という病気があります。子どもの時は暗いところで見えにくい症状があらわれ、大人になるにつれて視野狭窄が進んでいきます。



「見えにくさ」を感じたら

ぼやけやまぶしさを感じたり、視野が狭くなっているように感じたら、
眼科を受診したり、役所や福祉事務所などへ相談に行くことをお勧めします。

裏表紙に記載している3つの専門機関では、下記の①②③どの段階でも相談を受け付けています。

① 眼科の受診

視覚障害と診断されたら、身体障害者手帳の交付を受けるために、指定医に診断書・意見書を書いてもらいます。



② 市区町村に相談

地域の役所や福祉事務所にいき、身体障害者手帳を申請し、福祉サービスの説明を受けます。



③ 福祉サービスを利用

手帳の交付を受けることで利用できる福祉サービスを役所や福祉事務所、支援機関に申し込みます。



視覚障害の等級は、
1級から6級まで
規定されています。

障害の等級によって利用可能なサービスは異なります。
見えにくさの程度が変化した場合には、再認定を受けることもできます。
視野が狭いことも障害認定の条件になります。

4

日常生活に役立つ用具 利用できるサービス①

日常生活を快適に送るために必要な機器・用具である「補装具」や「日常生活用具」は、市区町村を通じて、支給または援助を受けることができます。

補装具

身につけることによって、失われた機能を補います。



●白杖

歩く先の安全を確かめる杖。路上の障害物を認識しやすくなるとともに、周囲の人が存在に気づいて道をあけ、人通りの多い場所でも歩きやすくなります。携帯性に優れた折りたたみ式の白杖もあります。



●眼鏡

まぶしさの原因となる光だけをカットする遮光眼鏡や、ライト付きで見たいものを明るく照らしながら見ることができるルーペなどもあります。



※ルーペが補装具として認められるかは市区町村によって異なります。

日常生活用具

意思疎通や調理など、円滑な日常生活と自立を支えます。

●触読式腕時計

短針と長針を触って時刻を確認します。



●拡大読書機

読みたい部分を拡大して表示します。色を反転させる機能もあります。



●点字機器

紙に点字を打ち込むタイプライターや、パソコンと連動して点字を表示するディスプレイなどがあります。



●IH調理器

火を使わない調理器具です。



5

せい かつ くん れん 生活訓練 利用できるサービス②

「見えにくさ」により日常生活でさまざまな不便を感じる場合があります。そこで、生活の困難さを解消し、より安全に安心して生活を送るために、補装具や日常生活用具の使い方を含めて、さまざまな訓練を受けることができます。

にちじょうせい かつ くん れん

日常生活訓練

日々の生活を送るうえで必要な動作をスムーズにするための訓練です。調理や金銭管理など、内容はさまざまです。



- 電子レンジや便利グッズを活用して調理をする方法
- 賞味期限などを確認するためにルーペや拡大読書機を利用する方法
- お札や硬貨を触って識別・仕分けする方法 など

ほ こうく ん れん

歩行訓練

白杖の使い方から、階段の上り下り、電車やバスの利用方法など、安全に安心して外出するため、単独歩行のノウハウを学びます。



く ん れん

パソコン訓練

文字を拡大する機能や、点字ディスプレイを利用したパソコンの使い方などを学びます。



く ん れん

コミュニケーション訓練

点字の読み書きや触手話等について学びます。



6

つう やく かい じょ しゃ は けん じ ぎょう **通訳・介助者派遣事業** りょう利用できるサービス③

め み りょうほう しょうがい かな がいしゆつ
 目と耳の両方に障害のある方に、外出とコミュニケーションをサポートする制度が、
 「つうやく かいじょしゃ はけんじぎょう通訳・介助者派遣事業」です。

たと とういん さい じ たく びやういん あいだ あんぜん い どう し えん
 例えば、通院の際に、自宅と病院の間を安全に移動できるよう支援すると
 ともに、い し やくざいし せつめい
 医師や薬剤師の説明をそれぞれのコミュニケーション方法に合わ
 せてつうやく とういん ほか やくしょ て つづ ふ だん が もの こうしゅうかい
 せて通訳します。通院の他にも、役所での手続き、普段の買い物、講習会
 やサークルへのさんか など、さまざま ば めん りょう
 や参加などの様々な場面で利用できます。

※視覚障害者向け移動支援サービスである「し かくしやうがいしゃ ぐわい どうろ し えん ぐわい へいよう か のう同行援護」も併用可能です。

コミュニケーション方法の例

■ じゃくし しゅわ弱視手話

はな て きより て うご ばば ちやう
 話し手との距離や手を動かす幅を調
 せい するなど見えにくさに はい りよ しゅ配慮して、手
 話で情報 わ じょうほうを
 伝えます。



■ も じ ひつぎ ひつだん文字筆記(筆談)

も じ おお ふと かん かく ちやうせい
 文字の大きさや太さ、間隔を調整しながら、
ひつだん じょうほう づた筆談やパソコンにより情報を伝えます。



み すすさらに見えにくさが進んだら

しゅ わ しゅわとく ば あい
 手話を習得している場合は、
 あいて しゅ わ かなた い ち
 相手の手話の形や位置を
 ざわ
 触ることで
 ないよう は あく
 内容を把握
 する「しよくしゅ わ触手話」
ゆうこうが有効です。



しゅ わ ほか て
 手話の他に、手のひらに
 ち じ を か く 「てがき文字」
 を用いること
 もあります。





ちか そろ だん まど ぐち れん らく
お近くの相談窓口までご連絡ください。

視覚・聴覚の両方に障害のある方や、
そのご家族、関係者の方からの様々な
ご相談を受け付けています。
また、同じような障害がある方が集まる
交流会の開催や、生活訓練、通訳・介助者
派遣事業などを実施しています。

聴覚障害のある方やそのご家族、
関係者の方々からの様々なご相談を
受け付けています。

見えにくさについての相談を
受け付けるほか、
視覚障害者向け便利グッズや、
福祉機器の販売を
行っています。

とう きょう と もう しゃ し えん
東京都盲ろう者支援センター (にんていえんごひーおーほうじん とう きょう もう しゃ と も かい
認定NPO法人 東京盲ろう者友の会)

■ 〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-32-6 コスモス浅草橋酒井ビル2階
■ TEL:03-3864-7003 ■ FAX:03-3864-7004
■ E-mail:tokyo-db@tokyo-db.or.jp
<http://www.tokyo-db.or.jp/>

しゃがいふくしほうじん ちょうりよくしょうがい しゃ じょうほう ぶん か
社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター

■ 〒153-0053 東京都目黒区五本木1-8-3
■ TEL:03-6833-5004 ■ FAX:03-6833-5005
■ E-mail:soudan@jyoubun-center.or.jp
<http://www.jyoubun-center.or.jp/>

にほんもうじんふくし しゃがいふくしほうじん にほんもうじんかいれんどう
日本盲人福祉センター (社会福祉法人 日本盲人会連合)

■ 〒169-8664 東京都新宿区西早稲田2-18-2
■ TEL:03-3200-0011 ■ FAX:03-3200-7755
■ E-mail:jouhou@jfb.jp
<http://www.normanet.ne.jp/~nichimo/>

発行・作成：特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会
協 力：社会福祉法人 日本盲人会連合
社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター
特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse
東京大学先端科学技術研究センター 福島研究室
発行年月日：2013年10月

DVD「見えにくさ」とともに生きる～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～



「耳と目と両方に障害をもつ動ではありますけれども、できることがあると聞きます」 生まれたときから耳がほとんど聞こえなかった村岡美穂さん。20代後半の頃、人にぶつかることが増えるようになり、「見えにくさ」を感じるようになります。病名は網膜色素変性症。遺伝性の目の病気。子どものときから暗いところが見えにくくなる「夜盲」という症状があらわれ、大人になるにつれて周辺から視野が狭くなって行きます。村岡さんのように先天性の**視覚障害**が**網膜色素変性症**を発症する場合は「**アッシャー症候群**」と診断されることがあります。視覚、耳は聞こえず、目は少ししか見えません。これまでの道のりは平易ではなかったものの、困難を乗り越えてきた経験が今に活かしているといいます。耳と目の両方に障害があっても、前向きな気持ちで道を切り拓いてほしい、それが彼女の願いです。

CHAPTER 1 「見えにくさ」の発見

- ◆「見えにくさ」を感じるまで
- ◆出陣の「見えにくさ」

CHAPTER 2 最期と出会いが人生を変える

- ◆「仲間」との出会い
- ◆気持ちの切り変え

CHAPTER 3 支援活動とサービスマンで生活が変わる

- ◆支援活動の活用
- ◆通訳・介助者の活用

TABA 視覚・聴覚障害者協会
東京都ろう者友の会
東京都盲ろう者支援センター
〒111-8833 東京都台東区浅草橋1-22-1 エスエムビル東館5階
TEL: 03-3664-7000 FAX: 03-3664-7004
E-mail: taba@taba.or.jp http://www.taba.or.jp

このDVDの制作費は制作費で賄えることが保障と断られていました。
また、公開される前は視覚・聴覚障害者協会から盲ろう者の会に依頼して、
このDVDの制作費は制作費と制作費の差額を制作費の半額に引き下げました。

DVD VIDEO

みなさまの“困った”を解消するお手伝いができるよう、

様々な企画をご用意してお待ちしております。

【付録2・4】

「見えやすさ」と「聞こえやすさ」 の情報展

2014年2月11日(火・祝) 10:30～17:00

◆入場無料 ◆事前申込不要 ◆入退場自由 ※どなたでもご自由にご参加ください

【情報保障】

手話通訳
パソコン要約筆記
磁気ループ



第1会場

ヒューリックホール浅草橋-2階
東京都台東区浅草橋1-22-16

- JR総武線 浅草橋駅 西口より徒歩1分
- 都営浅草線 浅草橋駅 A3 出口より徒歩2分

第2会場

東京都盲ろう者支援センター
東京都台東区浅草橋1-32-6-2階

- JR総武線 浅草橋駅 東口より徒歩3分
- 都営浅草線 浅草橋駅 A4 出口より徒歩3分

最近、聴覚障害者の方で「見えにくくなってきた」「視覚障害者の方で「聞こえにくくなってきた」

そんな“困った”を抱えていませんか？



2014年2月11日(火・祝) 10:30~17:00

「見えやすさ」や「聞こえ」についての情報をお届けします。ご家族、ご友人とお誘い合わせの上、是非お越しください。

「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展

第1会場
ホール

- 11:00~11:05 開会挨拶
- 11:05~11:40 講演：聞こえ・補聴器について
講師：柴崎美穂氏（東京都心身障害者福祉センター、言語聴覚士）
- 11:55~12:30 講演：聴覚に障害のある人に対する福祉サービス等について
講師：森せい子氏（社会福祉法人聴力障害者情報文化センター施設長、精神保健福祉士、中途失聴者）
- 13:15~13:55 バリアフリー映画上映：「渚のふたり」
※字幕・副音声あり
※全盲で難聴という重複障害者の青年ヨンチャンと妻スノホの日常を描いたドキュメンタリー。アムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭長編コンペション部門大賞（2011）、第6回国際障害者映画祭グランプリを受賞（2012）
ナビゲーター：山上徹二郎氏（法人メディアアクセスサポートセンター《MASC》理事長、株式会社シグロ代表取締役・映画プロデューサー）
ナビゲーター：大河内直之氏（東京大学特任研究員、視覚障害者）
- 14:10~14:45 講演：「どうやってみるか」を考える
～視覚障害のある人の便利な生活に必要な工夫と技術～
講師：尾形真樹氏（杏林アイセンター、NPO東京ライトハウス、視覚リハビリテーションワーカー）
- 15:00~15:45 講演：生きるって人とつながることだ
講師：福島智氏（東京大学教授、盲ろう者）
- 16:00~16:30 DVD上映：「見えにくさ」とともに生きる
～視聴覚に障害のあるアッシュャー症候群の女性の歩み～
ナビゲーター：村岡美和氏（社会福祉法人全国盲ろう者協会、盲ろう者）
- 16:30~16:35 閉会の挨拶

第1会場
ホワイエ

10:30~16:30

■視覚障害者のための聞こえの相談会
■聴覚障害者のための見えにくさの相談会
対象者 / 聞こえにくさを感じている視覚障害者・見えにくさを感じている聴覚障害者とその家族、支援者
申し込み方法 / 会場内「相談受付」にてご予約ください
相談時間 / ひとり30分程度

10:30~17:00

■機器展示・便利グッズ等の即売

視覚関連コーナー

- ・社会福祉法人日本盲人会連合
※日常生活用具、補装具など
- ・社会福祉法人桜雲会
※バリアフリー図書、点字関連グッズ

聴覚関連コーナー

- ・株式会社自立コム
- ・ダブル・ピー株式会社
※日常生活用具など（振動呼出器、集音器、テレビ・音楽関連機器、他）
- ・ブルームヒアリング株式会社 ※補聴器
- ・メドエル株式会社 ※人工内耳システム

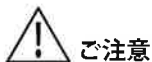
■見えにくさの体験コーナー

内容 / シミュレーションゴーグルを使って、見えにくさを体験
申し込み方法 / 会場内「体験コーナー受付」にてお申込みください
体験時間 / ひとり10分程度

第2会場

11:00~16:00

■東京都盲ろう者支援センター見学会



ご注意

※第1会場のヒューリックホール、ホワイエにはオフィス用エントランスから来場いただけませんので、外エレベーターまたは、外階段からお願いします。※第1会場、第2会場ともに駐車場がございませんので周辺の有料駐車場をご利用ください。

【第1会場・入口詳細図】



【お問い合わせ】

東京都盲ろう者支援センター Tel: 03-3864-7003 Fax: 03-3864-7004
Eメール: tokyo-db@tokyo-db.or.jp ホームページ: <http://www.tokyo-db.or.jp/>

主催：特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会

共催：社会福祉法人 日本盲人会連合 / 社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター / 特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse / 国立大学法人 東京大学先端科学技術研究センター 福島研究室
後援：東京都

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

みなさまの“困った”を解消するお手伝いができるよう、

様々な企画をご用意してお待ちしております。

【付録2・5】

「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展

2014年2月11日(火・祝) 10:30～17:00

◆入場無料 ◆事前申込不要 ◆入退場自由 ※ご家族、ご友人とお誘い合わせの上、是非お越しください。



第1会場

ヒューリックホール浅草橋-2階
東京都台東区浅草橋1-22-16

- JR 総武線 浅草橋駅 西口より徒歩1分
- 都営浅草線 浅草橋駅 A3 出口より徒歩2分

第1会場(ホール)

- | | |
|-------------|--|
| 11:00～11:05 | 開会挨拶 |
| 11:05～11:40 | 講演：聞こえ・補聴器について |
| 11:55～12:30 | 講演：聴覚に障害のある人に対する福祉サービス等について |
| 13:15～13:55 | バリアフリー映画上映：「海のふたり」※字幕・別音声あり |
| 14:10～14:45 | 講演：見えにくさ・補聴器について |
| 15:00～15:45 | 講演：生きるって人となつていくことだ
講師：福島晋成(東京大学教授、盲ろう者)
講師：福島晋成(東京大学教授、盲ろう者) |
| 16:00～16:30 | DVD上映：「見えにくさ」とともに生きる
～視覚に障害のあるアスシャー在来種の女性の歩み～ |
| 16:30～16:35 | 閉会の挨拶 |

第1会場(ホワイエ) 10:30～17:00

補助展示と便利グッズ等の販売、見えにくさの体験コーナー、相談会

第2会場

東京都盲ろう者支援センター
東京都台東区浅草橋7-32-6-2階

- JR 総武線 浅草橋駅 東口より徒歩3分
- 都営浅草線 浅草橋駅 A4 出口より徒歩3分

第2会場 11:00～16:00

東京都盲ろう者支援センター見学会(同時)

【情報保障】

手話通訳
パソコン要約筆記
磁気テープ

【お問い合わせ】

東京都盲ろう者支援センター
Tel: 03-3864-7003 Fax: 03-3864-7004
Eメール: tokyo-db@tokyo-db.or.jp

<http://www.tokyo-db.or.jp/>

主催：特別非営利団体法人 東京都盲ろう者支援の会
共催：社会福祉法人 日本盲人会連合 /
社会福祉法人 視覚障害者福祉文化センター /
特別非営利団体法人 Tokyo Lighthouse /
独立大学法人 東京大学先端科学教育研究センター 聴覚研究室
後援：東京都

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

最近、聴覚障害者の方で「見えにくくなってきた」「聞こえにくくなってきた」視覚障害者の方で「聞こえにくくなってきた」

そんな“困った”を抱えていませんか？

「見えやすさ」と 「聞こえやすさ」の 情報展



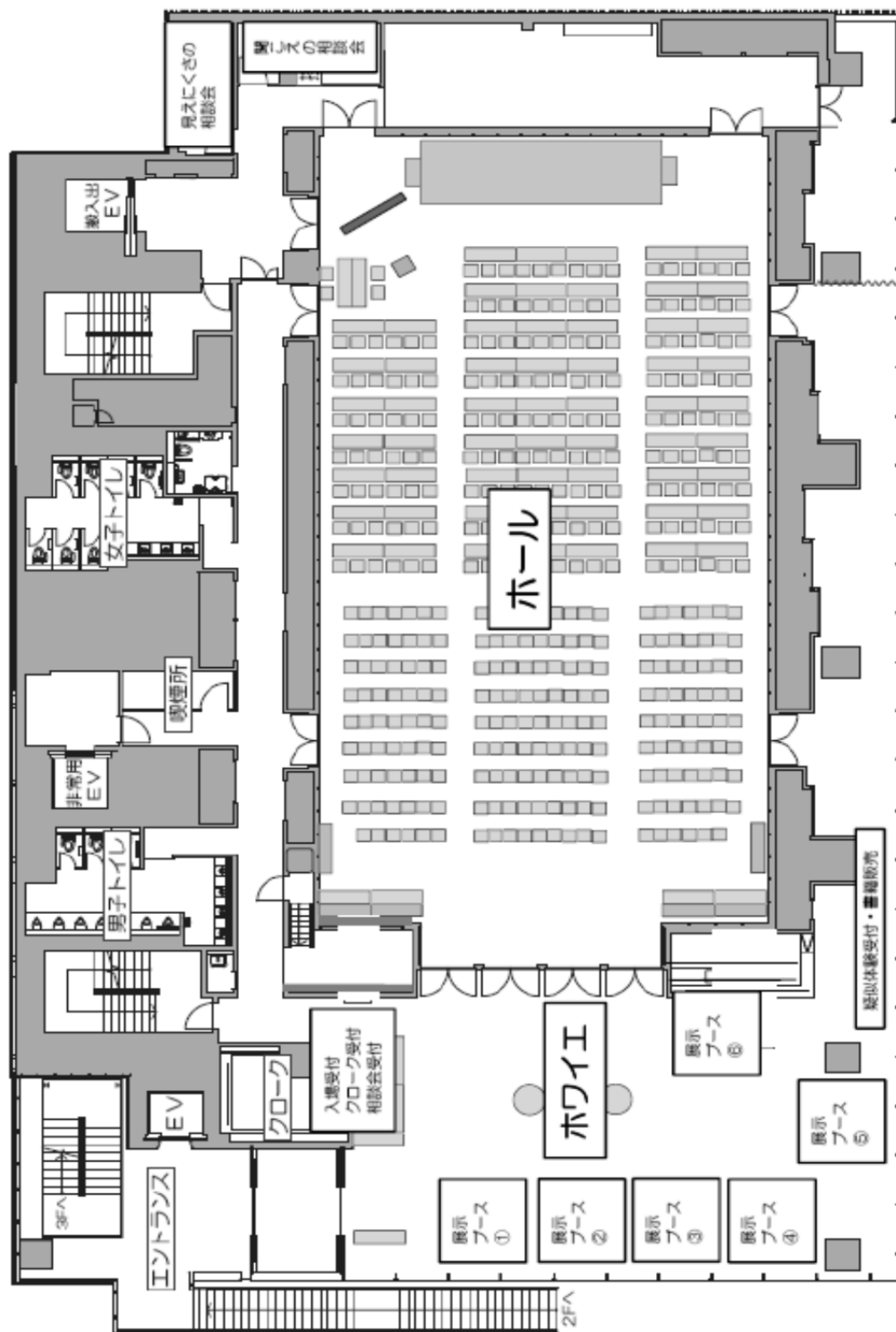
日時:2014年2月11日(火・祝)

会場:ヒューリックホール浅草橋

東京都盲ろう者支援センター

主催:特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会

【第1会場 ヒューリックホール浅草橋 会場案内図】



プログラム

第1会場 ホール

- 11:00 開会挨拶
- 11:05 講演：聞こえ・補聴器について (P8)
柴崎 美穂氏 (東京都心身障害者福祉センター、
言語聴覚士)
- 11:55 講演：聴覚に障害のある人に対する
福祉サービス等について (P10)
森 せい子氏 (社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター
施設長、精神保健福祉士)
- 12:30 休憩
- 13:15 バリアフリー映画上映：「渚のふたり」 (P12)
山上 徹二郎氏 (特定非営利活動法人 メディア・
アクセス・サポートセンター 理事長、映画プロデューサー)
大河内 直之氏 (東京大学 先端科学技術研究センター
特任研究員)
- 14:10 講演：「どうやってみるか」を考える (P14)
～視覚障害のある人の便利な生活に必要な工夫と技術～
尾形 真樹氏 (杏林アイセンター、特定非営利活動法人
東京ライトハウス、視覚障害リハビリテーションワーカー)
- 15:00 講演：生きるって人とつながることだ (P16)
福島 智氏 (東京大学 先端科学技術研究センター 教授)
- 16:00 DVD上映：「見えにくさ」とともに生きる (P17)
～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～
村岡 美和氏 (社会福祉法人 全国盲ろう者協会)
- 16:30 閉会挨拶

第1会場 ホワイエ

- 10:30 ◆視覚障害者のための聞こえの相談会
} ◆聴覚障害者のための見えにくさの相談会 (P19)
対象者／聞こえにくさを感じている視覚障害者、
16:30 見えにくさを感じている聴覚障害者とその家族、
支援者
申込方法／会場内「相談会受付」にてご予約ください
相談時間／ひとり30分程度
- 10:30 ◆機器展示・便利グッズの即売 (P20)
} 視覚関連コーナー
・社会福祉法人 日本盲人会連合
17:00 ・社会福祉法人 桜雲会
聴覚関連コーナー
・株式会社 自立コム
・ダブル・ピー 株式会社
・ブルームヒアリング 株式会社
・メドエル 株式会社
- 10:30 ◆見えにくさの体験コーナー (P19)
} 内容／シミュレーションゴーグルを使って、
見えにくさを体験
17:00 申込方法／会場内「体験コーナー受付」にて
お申込みください
体験時間／ひとり10分程度

第2会場

- 11:00 ◆東京都盲ろう者支援センター見学会 (P23)
} ご自由にご見学ください
16:00

「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展 開催要項

趣旨

視覚と聴覚の両方の障害が身体障害者手帳に記載されている人は、全国に1万4千人ほど存在し、都内にも840名の存在が確認されています（全国盲ろう者協会、平成24年）。しかし、東京都が実施している移動とコミュニケーションを支援する「通訳・介助者派遣事業」に登録している視覚聴覚二重障害者の数は120名に過ぎません。

このような状況から、適切な支援が受けられないために、社会的に孤立している視覚聴覚二重障害者が少なくないと考えられます。そこには、視覚障害のある方が聞こえにくさを、聴覚障害のある方が見えにくさを感じても、「障害ゆえに支援に関する情報が届かない」、「重複障害を心理的に受け入れられない」、「地域で相談ができる場がない」といった背景が存在すると考えられます。

それらの問題を軽減するために、この度、独立行政法人福祉医療機構の助成を受け、「盲ろう重複障害者社会的孤立解消事業」を実施する運びとなりました。本事業では、視覚障害・聴覚障害それぞれの支援に関わる団体が連携し、視覚聴覚二重障害者に情報を届け、また、問題解決を支援していくことで、社会的な孤立を解消することを目的としています。「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展はこの事業の一環として、視聴覚に障害のある方やご家族、支援者、一般の方々に、視覚障害、聴覚障害それぞれの補償や支援の方法について知っていただくことを目的としています。

本情報展を通して、ひとりでも多くの視覚聴覚二重障害者に「視覚と聴覚の両方に障害を持っているのは自分ひとりではない」ということを知っていただき、生活を楽しんでもらえるようなきっかけを作りたいと考えています。

日時

2014年2月11日（火・祝） 10時30分～17時00分

会場

ヒューリックホール浅草橋

（住所：東京都台東区浅草橋1-22-16）

東京都盲ろう者支援センター

（住所：東京都台東区浅草橋1-32-6 コスモス浅草橋酒井ビル2階）

主催

特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会

共催

社会福祉法人 日本盲人会連合

社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター

特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse

国立大学法人 東京大学 先端科学技術研究センター 福島研究室

後援

東京都

ご来場のみなさまへ

(1) 飲食について

第1会場のホール内は飲食可能です。

第2会場は、交流・研修室のみ飲食可能ですが、20名ほどしか入れませんのでご了承ください。

ゴミはいずれの会場もお持ち帰りください。

(2) 情報保障について

■第1会場 ホール

①手話、パソコン通訳

ホール前方に、手話通訳とパソコン通訳を用意しております。

②磁気ループ

会場内には、一部、磁気ループを設置しております。ご利用の方は、補聴器を「T」にしてお聞きください。

③机

ホール前方に机を用意しております。筆記通訳や指点字通訳などご利用の方が優先となりますのでご協力ください。

■第1会場 ホワイエ

機器展示・便利グッズ等の即売

手話通訳が必要な方は、「手話通訳」という腕章をつけたスタッフまで声をかけてください。

(3) 喫煙について

第1会場のホール廊下側に喫煙所がありますので、ご利用ください。

第2会場に喫煙所はありません。

(4) 地図について

第2会場の東京都盲ろう者支援センターへの行き方が分からない方は、裏表紙の地図をご参考にしてください。また、お気軽にスタッフまで声をかけてください。

ごあいさつ

認定NPO法人 東京盲ろう者友の会
理事長 藤鹿一之

皆様、本日はお忙しいところ、「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展にご来場いただきありがとうございます。

この「ごあいさつ」を書かせていただいたのは1月13日、成人の日でした。ある市の今年の成人式のテーマは「SHIPS」。

今まで生きてきた中で得た仲間や思い出とともに「未来」へ向ってそれぞれの船を出港させるという思いが込められているそうです。最高のテーマですね。

では、盲ろう者(目と耳の両方に障害を併せ持つ人)であった私は20歳の時はどのような心境で成人の日を過ごしたのか、少しお話しします。

当時は少し見えて少し聴こえる、いわゆる「弱視難聴」でした(今は全く見えなくて、全く聴こえない全盲ろうです)。その頃は東京都盲ろう者支援センター、東京盲ろう者友の会といった、盲ろう者を支援する団体、施設もなければ、盲ろう者向け通訳・介助者派遣事業等のサービスもなく、盲ろう者向け通訳・介助者のような、盲ろう者を支援して下さる人たちも居らず、ほとんどの国民が盲ろう者の存在すら知らない時代でした。私自身、盲ろう者は日本に数人しか居ないと思っていただけ、盲ろうという障害を受容できませんでした。

その頃は少し聴こえていたので静かな部屋なら他者とのコミュニケーションは可能でしたが、にぎやかな場所では他者とのコミュニケーションが取れなかったので「成人式に出ても意味がない」と思い、欠席しました。

そして自分に未来があるとは思っていませんでした。

あれから27年・・・。

東京盲ろう者友の会、東京都盲ろう者支援センターが設立され、東京都からの委託金、及び補助金により、盲ろう者向け通訳・介助者派遣事業等、盲ろう者の社会参加と自立を促進させるための事業が展開され、盲ろう者のことを支援、及び理解して下さる人たちが少しずつ増えてきました。そして、私自身、多くの方々に支えられ、盲ろう者向け通訳・介助者派遣事業等を利用することにより、社会参加も可能となり、盲ろうという障害を受容することができ、今では盲ろう者でも「未来がある」と思えるようになりました。

平成24年度、全国盲ろう者協会が実施した実態調査によると、全国で視覚と聴覚の両方の身体障害者手帳を持っている「盲ろう者」は1万4000人ほど

いるようです。しかし、そのほとんどが、情報が伝わりにくい等の理由で通訳・介助者派遣事業等のサービスを受けることができていません。

多くの盲ろう者に、盲ろう者でも社会参加が可能であり、「未来がある」ことを伝えるため、独立行政法人福祉医療機構の助成により、「盲ろう重複障害者の社会的孤立解消事業」を行なうことになりました。この事業の一環として、「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展を開催することになりました。

盲ろう者にとって「明るい未来」は総ての人々にとっても「明るい未来」だと思います。

本日、ご来場の皆様、私たち盲ろう者と共に「明るい未来」に向けて歩いていただけると嬉しいです。ご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今回のイベントを開催するにあたり、多大なご支援、ご協力をいただいた、社会福祉法人日本盲人会連合、社会福祉法人聴力障害者情報文化センター、特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse、国立大学法人東京大学先端科学技術研究センター福島研究室の関係者の皆様に心より感謝いたします。

聞こえ・補聴器について

柴崎 美穂（しばさき みほ）
東京都心身障害者福祉センター
言語聴覚士

このテーマでもっとも伝えたいことは、「補聴器を使いこなすことは、自分の聞こえかたをよく知ること」ということです。まず「聞こえについて」、次に「補聴器について」お話をします。

1 聞こえについて

①聞こえることで得る情報

聞こえることで得る情報には何があるでしょうか？たとえば、物音や人の気配で周囲の状況を把握したり、車内放送、緊急車両の接近などの音声による情報を得たり、会話の内容を聞き取ったり、声色やイントネーションから感情やニュアンスを読み取ったり、音楽を楽しんだり、さまざまなものがあります。

②聴力レベル

「聴力レベル」は、「dB（デシベル）」という単位であらわします。周波数（音の高さ）ごとに、その人が聞こえるぎりぎり小さい音の大きさを調べるものです。「平均聴力レベル」は、周波数ごとの聴力レベルから、決まった計算式で出す数値のことをいいます。

③難聴の種類と聞こえかた

・伝音難聴：音の振動が伝わる経路の問題で起こる難聴。音が小さく聞こえるのが特徴。

・感音難聴：音を感じる経路の問題で起こる難聴。小さな音が聞こえないだけでなく、音が歪んで聞こえるのが特徴。

・混合難聴：伝音難聴と感音難聴が合併したもの。

難聴の聞こえかたには、「小さな音が聞こえない」だけではなく、「言葉が聞き分けられない」「大きな音がうるさい」「早口が聞き取りにくい」「周りに雑音があると聞き取りにくい」「音の方向がわかりにくい」「自分の声がきこえにくい」などの特徴があります。

2 補聴器について

①補聴器とは

補聴器は、マイクロホンで拾った音を聞こえに合わせて増幅し、出力する機器です。

②補聴器にできること

補聴器の基本的な機能には、「音を大きくする」「音を調整する」「過大音を抑

える」の3つがあります。

③補聴器にできないこと

補聴器には、限界があります。さわがしいところや離れたところの会話、機械を通した声は、補聴器をつけても聞き取りにくいものです。また、わかりにくい話し方は、いくら補聴器をつけてもわかりにくいものです。補聴器をつけても、言葉の聞き取りが100%になることは難しいのです。

④補聴器の種類

・ポケット型：ほかの型と比べると大きいので、スイッチやボリュームなどの操作がしやすい。マイクを相手の口元に近づけることで、比較的聞き取りやすくなる。

・耳かけ型：本体を耳介の後ろにかけて使う。ポケット型に比べると小さいので、操作が困難な人もいる。

・耳あな型：本体を耳の穴に入れて使う。本体が小さいため、操作や電池の交換が困難な人もいる。

⑤補聴器を購入するまで

補聴器を購入するには、まず耳鼻科を受診し、お店を選んでよく相談し、実際に試してみることが必要です。合う補聴器がすぐに見つかるとはかぎらず、きちんとフィッティングを行うことが大事です。購入する前に、その補聴器で使えるかどうか、よく確認をすることが大切です。納得のいく補聴器選びには、補聴器を合わせてくれる人とのコミュニケーションが大切なのです。

⑥補聴器を使いこなすために

購入した後も、気になることがあればお店や耳鼻科で相談しましょう。年に1回はオーバーホールに出しましょう。

補聴器をつければ何でも聞こえるわけではありません。まわりの人がわかりやすい話し方をすること、聞きやすい環境をととのえることも大切です。

【わかりやすい話し方のポイント】

- ・聞く態勢がととのってから話す
- ・普通の大きさの声で
- ・少しゆっくりめに（大げさな話しかたをしない）
- ・文節で区切る
- ・何の話題かをはっきり伝える

【聞きやすい環境のポイント】

- ・周りの雑音を少なくする
- ・近づいて話す（視野がせまい場合は、ちょうどよい距離に）
- ・表情や口元が見えるような配置で
- ・部屋の照明・逆光に注意
- ・聞き返ししやすい雰囲気

聴覚に障害のある人に対する福祉サービス等について

森 せい子（もり せいこ）

社会福祉法人 聴力障害者情報文化センター

聴覚障害者情報提供施設 施設長

精神保健福祉士・認定心理士

介護支援専門員

本日は寒い中、お越しいただきまして心から感謝します。私は聴覚に障害がある者です。

中途難聴者ですが補聴器を外すと音のない世界になります。コミュニケーション方法は補聴器、筆談、手話等です。私の勤務する聴覚障害者情報提供施設は聴覚障害者の方やその関係者の方々からさまざまなご相談をお受けしています。

聞こえづらいとか聞こえないということは、生活音が遠ざかるだけでなく、人とのつながりが浅くなったり遮断されたりすることがあります。しかし、聞こえづらいことや聞こえないことを自他ともに受け入れ、聞こえを補うことや代わりになる方法を工夫することで、その人なりの尊厳を回復したり維持することが可能になります。そしてそうしたことへの援助は国や地域行政が責任を持ち福祉制度の中に構築していくべきことです。

さて、ここでは、現在の聴覚障害者福祉制度はどのような仕組みになっているか簡単にご紹介したいと思います。

身体障害者認定等級は聴覚障害者の場合2級から6級まであり、5級はありません。2級所持者の中には乳幼児期から聴覚障害が重い場合言語障害を併せ持つ方もいます。そのように言語障害が重複している場合は1級になります。聴力は音を聴く力と言葉として聞き分ける力があり、どちらも検査して人の会話の声の聞き取りに困難を抱えるようになると手帳交付の範囲に入ってきます。そのラインは両耳70デシベルです。難聴になると自然とテレビのボリュームを上げたり、会話の聞き直しが多くなってきます。個人差はあるものの、40～50デシベルぐらいになりますと大きめの声で話してもらいたくなります。そして補聴器を付けるとその効果と必要性を感じます。東京都の制度では、18歳未満の児童の場合は30デシベルから助成対象になり、成人の場合は6級から助成を受けることができます。イヤーマールド（耳栓）も対象になります。電池は以前は給付されましたが今は自分で買わなくてはなりません。補

聴器に組み合わせると便利な機械があります。福祉の項目は「会議用拡張器」です。これは4級から支給対象となります。実際の商品は各メーカーから出ていますが、例として「ワイヤレスガイド」というトランシーバーのような物です。話し手に小さなマイクを付けるか持ってもらい、自分は受信機をつけて音を聞く機械です。他には通信機器や屋内信号装置、情報通信機器などの項目があり、難聴者や聴こえない人の生活をサポートするための制度があります。聞こえづらくなると玄関のチャイムや電話の音や声、非常ベルなどを聞きとるのが困難になり、それは生きていく上で不便なことが生じやすいので、聴力に頼らずに他の方法で必要な音を受信したり意思疎通や会話ができるように様々な商品が開発され福祉対象商品としてあります。福祉対象商品の給付に当たり、その費用は公費9割、自己負担は原則一割ですが、世帯所得等によって個人差が生じます。

また、これら物的支援の他、人的支援として「要約筆記者」や「手話通訳者」「盲ろう者向け通訳・介助者」の派遣制度があり、公費で派遣されます。日常生活用具の支給申請は福祉事務所が、意思疎通支援者の派遣利用登録や申請は区の障害福祉課や社会福祉協議会などが窓口になっています。要約筆記者は聞こえづらい部分を文字化してくれますし、手話通訳者は話し手の声を手話に変え、手話を声に変えて通訳してくれます。通訳・介助者は聴覚と視覚と双方に障害のある方の外出や必要な場面に、その人の必要とする方法で介助します。方法としては指字や触手話、補聴援助機を使つての音声通訳、大きな文字での要約筆記や見えやすい距離での手話通訳など支援を必要とする方へ柔軟に対応します。こうした人的社会資源を活用していくことで、人と接する機会が減りがちな聴覚障害者も社会参加が可能になります。しかし、宗教活動や営利を目的としたもの、人道的ではない場面には派遣されません。意思疎通の支援者は守秘義務を課せられていますので、通訳や介助をした場で知り得たことを本人の許可なく本人の支援目的以外に利用したり、口外することはありません。

福祉の法律や具体的な施策は数年ごとに変わっていきませんが、真に当事者の生活の差別や不便を解消していくことができるかどうか、当事者の生活の視点から具体的な施策が展開されるかどうか、しっかりとアンテナを立てておこななくてはなりません。

ご家族の方やご自身が、聞こえのこと、聴覚障害者福祉制度の利用に抵抗があるとか、聞こえづらいつか聞こえないことが辛くて精神的に危うい状態にいらつしやる時などは、一人で悩まずに相談機関の門を叩いてみてください。きっと何か新しい発見やよい出会いがあると思います。

バリアフリー映画上映：「渚のふたり」

大河内 直之（おおこうち なおゆき）
東京大学 先端科学技術研究センター
福島研究室 特任研究員

山上 徹二郎（やまがみ てつじろう）
NPO法人メディア・アクセス・サポートセンター 理事長
映画プロデューサー

全盲ろうのチョ・ヨンチャンさん（以後ヨンチャンさん）と、脊椎に障害を持つ妻キム・スンホさん（以後スンホさん）。映画では、この二人の日常生活がドキュメンタリーとして描かれています。TVディレクターでもあるイ・スンジュン監督が、二人に2年以上密着して撮影した映像が、映画として結実したものです。

ヨンチャンさんは、ご存知の方も多いと思いますが、韓国の盲ろう者です。2006年に大阪府堺市で開かれた第16回全国盲ろう者大会、ならびに2009年に群馬県伊香保で開催された第19回全国盲ろう者大会に、奥さまのスンホさんと一緒に参加されています。2009年の来日の際は、イ・スンジュン監督も一緒に、滞在中はずっとカメラを回されていました（残念ながら今回の映画では、日本での映像は出てきません）。

この映画の特徴は、盲ろうという障害や、ヨンチャンさんのコミュニケーション手段である指点字（韓国では点話【チョンファ】と言われている）等について、あまり詳しい説明がないということです。つまり、盲ろうの特性や大変さを紹介するのではなく、盲ろうのヨンチャンさんと脊椎障害のスンホさんが助け合いながら生きていく夫婦愛を淡々と描いていることが特徴と言えます。さらに、映画のところどころに、ヨンチャンさんの書かれた詩が字幕と音声で挿入されていて、二人の絆の強さと愛情の深さがさらに強調され、観客の心をぐっと引き寄せていきます。映画の前半に、蛍光灯を交換するシーンがありますが、スンホさんがヨンチャンさんに指点字で指示を出しながら、何とか二人で協力して蛍光灯を新しいものに交換します。その事実だけが単純に描かれていて、細かな解説などは一切ありません。

したがって、盲ろうのことをある程度知っている人にとっては「これで本当に盲ろう者のことを分かってもらえるのだろうか」、「盲ろう者の生活にはもっと大変なこともたくさんあるので誤解が生まれるのではないか」という感想を

持つ人も多いと思います。実際、私もはじめてこの映画を見たときは、何か物足りなさを感じました。また単に二人の「おのろけ」を見せられているだけなのではないか、とも思いました（笑）。

しかし、そのとき一緒に見ていた映画関係者からは「一つの愛情の形だと思った」「障害を前面に出していない作り方がよかった」等非常に好意的な意見が出されていました。現に、この映画はヨーロッパでは大変高い評価を受けており、2012年のアムステルダム国際ドキュメンタリー映画祭にて、アジア映画としては初の最優秀長編ドキュメンタリー賞を受賞しています。盲ろうや障害にあまり馴染みのない一般の人たちにとっては、二人の生き方を通してかえってストレートに彼らのメッセージが伝わっているのかもしれませんが。同時にそこに内包される不便さや苦悩も自らの日常に引き付けて想像できるのかもしれませんが。

今回のイベントでは、時間の関係で25分ほどしか上映することができませんが、2月15日より東京と大阪で一般公開が始まります。ぜひ劇場に足を運んで二人のおのろけを・・・いやいや、夫婦愛を味わっていただければと思います。また、この映画は日本語字幕・日本語吹き替え・日本語音声ガイドの他、点字ならびにテキストデータによる台本が提供されます。まだまだ不完全な形ではありますが、盲ろう者にもアクセスしていただける映画となっています。盲ろう者にとって映画はなかなか手の届きにくいメディアではありますが、この映画をきっかけに、盲ろう者の声やニーズが少しでも多くの映画関係者に届けばと願っています。映画の内容はもちろんですが、上映方法等についても、ぜひ多くのご意見をお寄せいただければと思います。

【劇場公開のご案内】

■東京

2014年2月15日（土）より「シネマート新宿」
アクセス：地下鉄新宿三丁目駅B2出口より徒歩1分
WEB：www.cinemart.co.jp
電話：03-5369-2831

■大阪

2014年2月22日（土）より「シネマート心斎橋」
アクセス：地下鉄心斎橋駅7号出口より徒歩3分
WEB：www.cinemart.co.jp
電話：06-6282-0815

「どうやってみるか」を考える
～視覚障害のある人の便利な生活に必要な工夫と技術～

尾形 真樹 (おがた まさき)
杏林大学医学部附属病院 アイセンター
NPO法人東京ライトハウス
視覚リハビリテーションワーカー

『どうやってみるか』を考える
視覚障害のある人の便利な生活に必要な工夫と技術

尾形真樹
視覚リハビリテーションワーカー
杏林大学医学部附属病院 アイセンター
NPO 東京ライトハウス

どうやってみるか
どうやって みるか
どう やってみるか

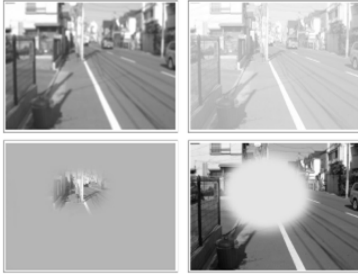
見えない < 見えにくい
約 1,640,000 人

ロービジョン

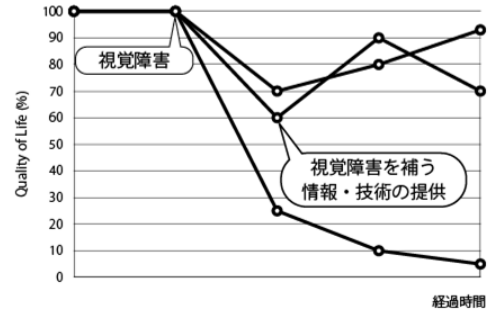
眼鏡等では矯正しきれない
視機能の低下により
日常生活に必要な行動、
たとえば
「新聞を読むこと」
「街を歩くこと」
に支障が生じている状態

Faye E. E., 1984

さまざまな視機能低下



視覚障害とQOLの変化

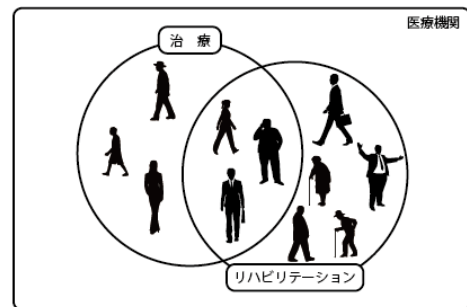


視覚リハビリテーションという考え方

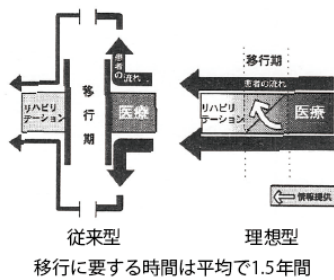
視機能が低下していること、
 したいことをできずに困っていること、
 この2つは別々のこと。

これまでとは異なる技術を使う生活へと、
 円滑に移行する必要がある。

理想の治療と視覚リハビリテーションの関係



医療から視覚リハビリテーションへの移行



田口朋子ら (1999) 中途視覚障害者への視内での情報提供. 第8回視覚障害
 リハビリテーション研究発表大会論文集, 117-120.

Orientation & Mobilityという考え方

歩行訓練では馴染みのある考え方

Orientation とは、ある空間の中における自分の位置の
 認識を確立しそれを維持する能力であり、
 Mobility とは、安全かつ効率的な方法によって空間を
 動く行動である。

(LaGrow and Weesses, 1994)

何らかの動作を行う時、補助具を使用する時など、
 視覚リハビリテーション全般に影響のある考え方

生きるって人とつながることだ

福島 智（ふくしま さとし）
東京大学 先端科学技術研究センター
教授

【プロフィール】

1962年、兵庫県神戸市に生まれる。

3歳で右目を、9歳で左目を失明。筑波大学付属盲学校高等部在学中の1981年、18歳のときに、突発性難聴で聴力も失った。光も音も感じられない状態のなかで苦悩を経験するものの、同年、母・令子が両手の6本の指を用いての「指点字」を考案。「指点字」が福島にとっての「光」と「音」になり、以後、他者とのコミュニケーション方法として使用されることとなる。

1983年、東京都立大学人文学部に盲ろう者として初めて大学に進学。同大学院博士課程、同大助手、金沢大学助教授等を経て、2001年、東京大学先端科学技術研究センターに助教授として着任。2008年5月に同大学から博士号（学術）を授与、同年10月より同センター教授に。

大学教員としての仕事の他、東京盲ろう者友の会初代会長（1991～1996）、同会顧問（1997～現在）、全国盲ろう者協会理事、世界盲ろう者連盟アジア地域代表を連盟発足時（2001年）から現在まで勤める。また、内閣府中央障害者施策推進協議会委員、厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員などを歴任し、現在は、内閣府務め、障害者政策委員会オブザーバーとして、盲ろう者を中心とする障害者福祉の増進のための活動にも力を入れている。

【主な著書】

『盲ろう者として生きて』（明石書店、2011）

『生きるって人とつながることだ』（素朴社、2010）

『盲ろう者とノーマライゼーション』（明石書店、1997）

**DVD上映：「見えにくさ」とともに生きる
～視聴覚に障害のあるアッシャー症候群の女性の歩み～**

村岡 美和（むらおか みわ）
社会福祉法人 全国盲ろう者協会

【プロフィール】

1973年、東京都生まれ。

生まれたときから耳はほとんど聞こえない。2歳から、ろう学校で口話法による教育を受け、小学校3年からは統合教育を受ける。短期大学卒業後、大手電機会社へ就職。手話は、20代前半から覚え始める。就職して約6年経った頃、網膜色素変性症を発症。2005年から社会福祉法人全国盲ろう者協会に勤務。趣味は、料理やお菓子作り、ウォーキング、旅行など。

【DVD紹介】

「耳と目と両方に障害をもつ私ではありますがけれども、できることがあると思います」

生まれたときから耳がほとんど聞こえなかった村岡美和さん。20代後半の頃、人にぶつかることが増えるようになり、「見えにくさ」を感じるようになります。病名は網膜色素変性症。進行性の目の病気で、子どものときから暗いところが見えにくくなる「夜盲」という症状があらわれ、大人になるにつれて周辺から視野が狭くなって行きます。村岡さんのように先天性の聴覚障害者が網膜色素変性症を発症する場合は「アッシャー症候群」と診断されることがあります。

現在、耳は聞こえず、目は少ししか見えません。これまでの道のりは平坦ではなかったものの、困難を乗り越えてきた経験が今に活きているといいます。耳と目の両方に障害があっても、前向きな気持ちで道を切り拓いてほしい、それが彼女の願いです。

チャプター1 「見えにくさ」の自覚

- ◆「見えにくさ」を感じるまで
- ◆当時の「見えにくさ」

チャプター2 勇気と出会いが人生を変える

- ◆「仲間」との出会い
- ◆気持ちの移り変わり

チャプター3 支援機器とサービスで生活が変わる

- ◆支援機器の活用
- ◆通訳・介助者の活用

【web公開のご案内】
2月12日よりwebで
動画を公開いたします。
<http://www.tokyo-db.or.jp/>



DVD : 「見えにくさ」とともに生きる

**視覚障害者のための聞こえの相談会
聴覚障害者のための見えにくさの相談会**

■視覚障害者のための聞こえの相談会（個別相談）

対象者：聞こえにくさを感じている視覚障害者とそのご家族、支援者

相談員：言語聴覚士

定員：7名

■聴覚障害者のための見えにくさの相談会（個別相談）

対象者：見えにくさを感じている聴覚障害者とそのご家族、支援者

相談員：歩行訓練士

定員：7名

※手話通訳をご希望の方は、受付の際にお申し出ください。

■時間 10：30～16：30（ひとり30分程度）

■申込方法 ホワイエ内「相談会受付」にてご予約ください。

※先着順で受付致しますので、ご希望の方はお早めにご予約ください。

今回の相談会に参加できなかった場合でも、相談は随時、東京都盲ろう者支援センターで受け付けています。

見えにくさの体験コーナー

■内容

シミュレーションゴーグルを使って、「視野が狭い状態」や、「視界が白く濁った状態」にして、文字を読んだり手話を見るなど見えにくさを体験します。

■時間 10：30～16：30（ひとり10分程度）

■場所 ホワイエ

■申込方法 ホワイエ内「体験コーナー受付」にてお申込みください。

機器展示・便利グッズ等の即売について

視覚関連コーナー

■社会福祉法人 日本盲人会連合

【概要】

視覚障害者の日常生活用具・補装具の販売斡旋及び修理に関する業務、新製品の研究開発等の業務を行っております。また点字版・墨字版・デイジー版による用具カタログを作成しております。

【出展品】

日常生活用具（触読腕時計、音声体温計、電磁調理器）
ロービジョン用品（拡大読書器、ルーペ、弱視者向け筆記用具）
白杖各種、家庭用品・雑貨（醤油さし、白黒まな板、音声電卓、タイマー）
点字関連（点字電子手帳、点字器、点字ノート）、指点字機器（ゆびこん）

【所在地】

〒169-8664 東京都新宿区西早稲田2-18-2
TEL：03-3200-6422
FAX：03-3200-6428

■社会福祉法人 桜雲会

【概要】

鍼灸医学系を中心に点字・録音図書を出版しております。また点字広報、選挙広報、点字メニュー、点字サイン、点字名刺などの作成も受託しております。

【出展品】

点字キューブ、携帯用小型マッサージ器、ユニバーサルデザイン絵本、防災グッズ等の販売を行います。また、「ヘレンケラースマホ（盲ろう者と健常者等との間の筆談電話）」の体験会を実施いたします。

【所在地】

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-14-102
TEL：03-5337-7866
FAX：03-6908-9526

聴覚関連コーナー

■株式会社 自立コム

【概要】

屋内信号装置、補聴器周辺機器、電話機関連製品、振動式目覚まし時計など聴覚障害者用の機能製品の輸入・開発・製造・販売を行っております。

【出展品】

ベルマンビジットシステム（振動受信機対応屋内信号装置）

ジャンボプラス（大きなボタンと点字がついた音量増幅電話機）

ビッグタイム（大きくコントラストがはっきりした文字盤採用の振動式目覚まし時計）

【所在地】

〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-4 大場ビルA館5F

TEL：03-3476-2160

FAX：03-3476-2425

■ダブル・ピー 株式会社

【概要】

当社は聴覚障害に関わる分野で、聞こえない・聞こえにくい方々の生活をサポートしております。コミュニケーションは「手話」、「筆談」、「ゆっくりお話しする」など、お客様に合わせて対応しております。

【出展品】

簡易筆談器かきポンくん、携帯用信号装置合図くん05、振動式目覚まし時計、屋内信号装置シルウォッチ、補聴援助システムR o j e r、補聴器

【所在地】

〒164-0001 東京都中野区中野3-36-10-2F

TEL：03-3229-2282（代表）

FAX：03-3229-2277

■ブルームヒアリング 株式会社 有楽町店

【概要】

補聴器専門店「ブルーム」の店舗は、全国ネットワーク。首都圏および地方も合わせて49の店舗でサービスを展開しております。

【出展品】

ワイデックス社の最新補聴器を展示いたします。また最新の補聴器と連携し、ワイヤレスな状態でテレビや音楽を楽しんだり、携帯電話を使うことが可能な「DEXシリーズ」を展示いたします。

【所在地】

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館2階
TEL：03-3201-4133
FAX：03-3201-2012
※全国に49店舗。ご自宅のお近くの店舗をご紹介します。

■メドエルジャパン 株式会社

【概要】

人工内耳は、補聴器を装用しても効果が不十分な高度の難聴の方のための医療機器です。メドエルは40年に渡り人工内耳を始めとする人工聴覚機器の研究開発に携わってまいりました。弊社のCEOであるインゲボルグ ホフマイヤは、その功績が讃えられ米国のノーベル賞と言われるラスカー医学生理学賞を受賞いたしました。ご興味のある方は、ぜひ弊社ブースまでご相談ください。

皆様との信頼を大切に、弊社のスタッフがお話をお伺いいたします。

【出展品】

人工内耳のご紹介・各種相談

【所在地】

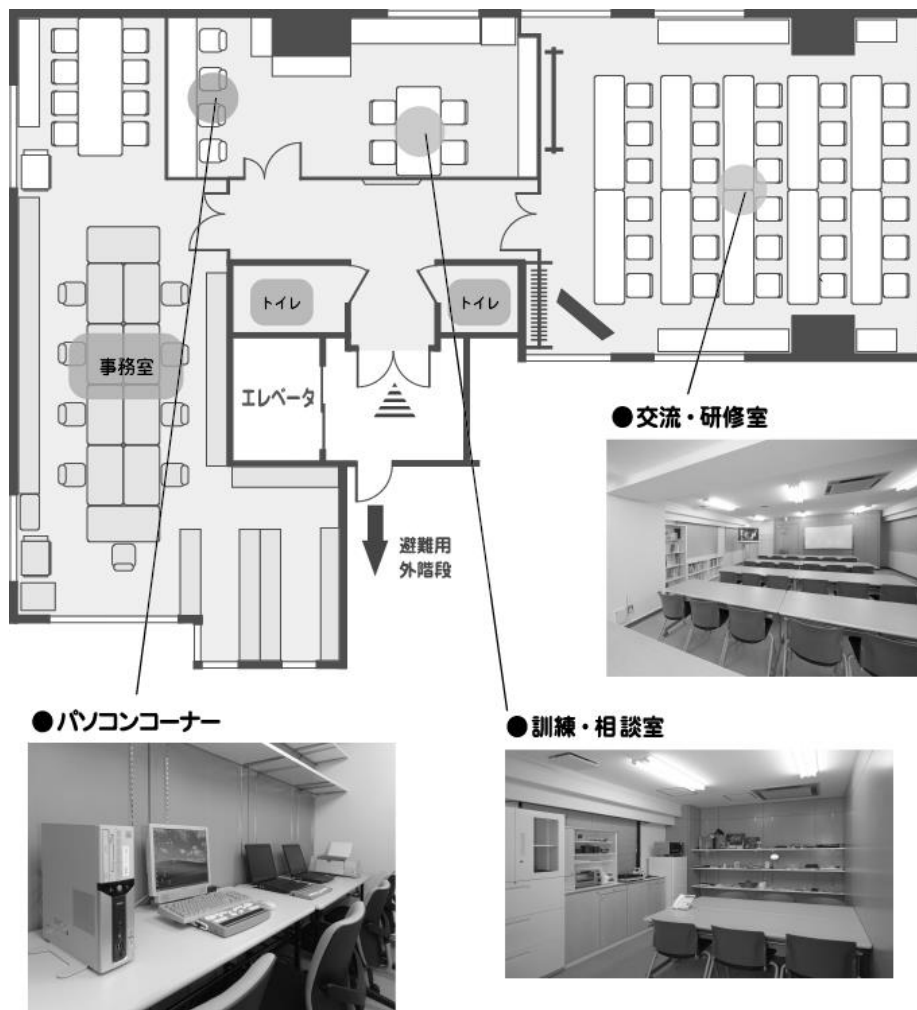
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-1-20
お茶の水ユニオンビル5階
TEL：03-5283-7266（代表）
FAX：03-5283-7265

第2会場 東京都盲ろう者支援センター 見学会

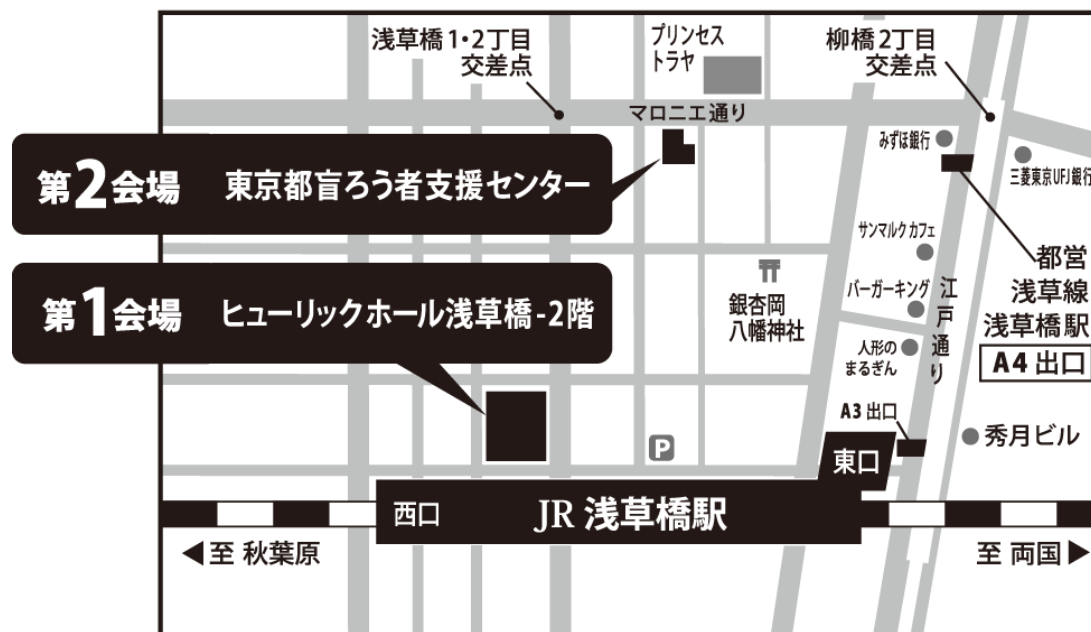
■東京都盲ろう者支援センターについて

「コミュニケーション方法を身に付けたい」、「身の回りのことが自分でできるようになりたい」、「話し合える仲間がほしい」、「困っていることを相談したい」…。東京都盲ろう者支援センターは、目と耳の両方に障害のある盲ろう者が安心して暮らせるようにサポートし、自立と社会参加の促進を図ります。センターは東京都の補助を受け、認定NPO法人東京盲ろう者友の会が運営しています。

【東京都盲ろう者支援センター 平面図】



【会場地図】



「見えやすさ」と「聞こえやすさ」の情報展 プログラム

発行日 2014年2月11日

編集・発行 特定非営利活動法人 東京盲ろう者友の会
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-32-6
コスモス浅草橋酒井ビル2階

TEL 03-3864-7003

FAX 03-3864-7004

E-mail tokyo-db@tokyo-db.or.jp

URL <http://www.tokyo-db.or.jp>